特別
へ12
1077
47

宮城縣立圖書館

利
1077
46×7

特
12
1077
幻

此年立三八
九歳ニシ

推本

廿三歳

私此年立華花鳥餘情ヨハ三年乃相違
有之十九歳ヨリ[illegible]諸抄の
説廿二歳の分お遠ケシと云シ
二月廿日ハ兵部卿宮伯顔詣キ
帰京シ沒後字治詣キ
夕霧右大臣清談詣キ
薫宰相中将糸御所詣キ

宇治八宮を御消息は薫中将事

匂宮見給ふ有御返事事

薫中将侍人〻参八条会物語事

匂宮を消息北宮宇治文事

中宮書ハ也遣事 返事

夜大納言参御返事

宇治文ハ女事 齢事

姫君廿五 中宮廿三 云〻

三秋筆相中将仁中納言事

竹川巻末詞同時也

七月源中納言宇治返事

宮姫君遣御事 付源中納言事

物言之事

大将君川琴返事

源中納言参弁君物語事

兵部卿文帝通書宇治事

蓄秋八文為御人念仏殿の周利ち事

中将女君遣返同事

自念仰之時給額曰八文病給事
八月廿日夜中八宮夢給事
源中納言國宮詣事 夢給事
訪河國梨事
九月白宮紅葉道遥並給事
白文を消ち御字給事
大姫君書れ給事 給中君不書給
早旦白文を詣文上字給事 立返事
詣中院源中納言来字給給事

姫君御 荆面給事 与老人拘給事
源中納言荆面白文 次物語字給姫君
事
宇治姫君源詣之物事
年高事
年高源中納言詣宇治給事
荆面姫君 次語白文詣給事
与宮亟人給給事
廿三年 中納言

年立ニ八廿歳ト

春初月河岡利生許献芹蕨お字治事

花法勾宮送消息お字治事中文の返事

兵部卿責恨源中納言治事

三条宮焼亡入道六條院給事

六月朔日源中納言出家治給自源子宮事

見帰君達事

椎本

花 以奇詞為題名

河 立ちよりなれぬる事と思ふ椎ゆゑ

秘 題名以所号之薫廿二歳の春次

乃ち廿三の夏までの事也 花鳥異

有と不用之義

幸 生名所ゆゑ有と薫廿歳乃春次

年廿三夏迄九年也

花 薫十九歳の春より廿歳の夏までの事

みえうり十九の姫中納言よハなり給ふ
竹川宰相と同時也

一

きはめて此の大日のかたに兵庫卿乃宮乃
にまうして候

秘 宮願をたてまつるなり

兵庫卿文白文也三宮也

何 長谷寺参詣在之勅書参

うちのわうれ沸なるやうも

元 南部下向の人々宿泊と中岩うす
はしの清水をみるも平等院まで御
儲乃事あるべ

秘

南部信濃守殿ハ中屋敷ニ居ル事ハ
なりとハいふ一国の政事ハ長日祭
の使ハ中宿を出ル也
為人の山地の月と雪の花ハ里の名
はるかなる春の家 義
兵部卿宮ハ文の作者ハ中将ハ
てゆくゝおもしろくしとハいふ
おもしろくハなりよかるべしとハいふ
義 山路草子の地也

一

うめしとハいふ人も花を見る里の名
何
本ハ末勢ハ世代宇治山の奥大意
古 花をうゑる方をうち稿の中にて人を
かよりの年をふるまひ
花 うめしとハいふ里の名を古今の歌に世を
うち山ハをうち稿をしらぬ世代を
ていかゝ也 山源氏の詞をもちてある歌
元大元年七月宇治殿の時東宮の
御日て定家卿

まろ人の山路の月の遠を思ハ里の名
はるきこかしてこの庵
又名所梅所ハ東海道
田原の里ハ
里の名うつみうり家ゝ
寺
我いとを松のうつりこの所をしるり
枕
哉撰ハ撰ハ下にて
歌
山川の河海ハ歌
所ハ定家東海道
所ハ世のうきを撰ハ

歌をとりてかゝ書なをせ
なをくむつまりはあさ
枕
所名ハ白河関
ゆ
あさかの沼
歌上人ハ
歌
江郷さくかを
六条院
寺
花
右大臣ハ

抄
源氏物語の時代あり西之今乃平等
院なる之し　花鳥よ　くはしくみえたり
河
をもしハきせん法師式部たちの記
にもしるし貫之か小町をもなむとハ
またいとゆゑあり深し不可遠
遠方（ヲチカタ）　遠近（ヲチコチ）　抄　彼方（ヲチカタ）
花
河原左大臣融公乃別業宇治にあり
陽成天皇も此所に遊び給ひ
宇治院と云所也　宇多天皇朱雀院之

御ゆき給ひし所なり　朱雀院の御
門も是にて遊猟ありて李部王
記に見えたり其後六條左大臣
雅信公の所領となり　長徳四年十
月乃比法成寺関白道長公買とりて同
五年宇治の家となし給ふ　後宇
治関白の代にいたり永承七年に寺となされ
て法華三昧を修し平等院と号け
給ふ治暦三年に行幸ありし時は

藤氏の長者にして為右大臣よ
り摂堂の関白にうつりてを二条
院にうつりたまひしかば別当
義
花鳥の義をうつし別業に定め給
しを花洛の名所とぞ八条の
宮とぞ西八川なとと京の方は西川の
むひせ平等院なりけるを
たちとくさの山もえくり
秘
夕霧白雲の御ゆかりの山せをこそ
義
はつねとせ
宮なとはてをあ
義
夕霧のはたをねと白雲院小野宮
宰相中将の御ゆかりの御せをこそ
秘
菫せ
角ちに
中くしやをて
夕霧の手ならすさ海と送
すへきなる代筆の手なれ書はや
をて夕霧の手なれつるをとはく

おもひ給へるや けしからぬ尾花はい
御句まき
かのもりぬるしこと
箋 八宮邊のうれしきまつりとせ
たとへをいふちらまてしみて
箋 夕霧也 紅梅亭也夕霧の子也八宮の
風流をもれしまつりおほかたまよはし
給ふともろや 紅梅大納言の事
ふや

御子の君たち
秘 夕霧の御子や
右大弁侍従宰相権中将とうの将蔵人の
兵衛佐

夕霧
- 右大弁（三男） 母三条上
- 侍従宰相 母不審
- 権中将 母三条上系図ニハ源宰相中将と行門 蔵人少将三位中将三位中将又宰相に成有
- 頭中将 母藤内侍系図ニハ右中将行門と 源中将ともいへり
- 蔵人兵衛佐 母三条上系図ニハ四位少将と行門と 兵衛佐

弁 なりの霧のうちもや
心ちに思ひうきこしをつる文章ハ
業 主上と無后し仕白象をハ愛文上て海
ますらせ
まつらく六章院の清うさこ海ハ
業 業上人なりひそのひ一ゐ
碁すくうの人の碁
囲碁 竟始伝之 雙六ハ 自天皇都しこし 持統天皇三年制 入唐
章君斗弾碁 後漢書梁冀ハ傳云 弾碁

両人対局以右為之
先勝り
業 弾碁ハ碁をはじくこと若石うきなり
の義也
さてもやをりくの碁をもうきまは
業 八宮の姫君うちの手ゆくや
ものとそとそとそやーて
業 かやりみ山や川をとうあハ物語
なりとのうちひらふ一一主あとと仕なく

花
宇治花ハ
平等院を
こし河
むかしや
ひとつの
家ハ川を
こえてされ
くみそき
しけり
扨ときを延
との相手ノ
まつりを
よろし

きゝ物やされともしても事と思ふてさい
色りもてこやさてもてハ事れ然之
かつひしまの家かほそくけりまるな
筆
八家や川を浦ふうや
むかしの事を扨ていてまとく
并
八家乃色く
梅之紙いしけりしに私も紙もまおれ
松
薫れ節や 并
たゝしきにおひきやうほさゝる

源乃清節を高家をうつり給く
まことあるかき海なりし
ちしれ共しの流そうり乃
河
清源や 一族の心を
并
薫れ節の高殿仕の都も上にゝあるを
拘木ゝ浦辺つ旅之
義
是ハ薫の節乃事せ誰もなく八家
よ弥かりし守まり得つゝ之
さいわの君れ共扨しうハ

松　葉や　八重の御所桜　義

所を学ぶ家もうつり

松　法文かとのしなひをいり

葉し法舟ふもとてわうるうれし

ハいそう姫君の事をとう出人と愛無

ひるせ

いそかはおと梅ゝ葉しみそ生しなめ

ゝ所ハ

義　花ハ変前正後の見比勾ハ前ゝ

也ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ

ゝ生ゝハ一ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ

松　前ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ

白髮の梅なり梅迄ゝ梅ゝ梅ゝ

ゆゝなり

ゝゝ梅ゝ梅ゝハ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ

可　梅ゝ梅ゝ梅ゝの山ゝ梅ゝ梅ゝ

松　同所川之　舟川所　義風

私詩ヨミ　春風堤賞還堤倶絶見用

花又落花トアリ

川ゝ氏柳のはなよりもひくくのうけ

河宿　いれしりろ川ゝ氏柳のもをはなさす

れしうのはハなもをん

柳

河海ゝ拾貫之か哥いまをしろ川ゝ氏柳

ゝ　菜日本紀才五孔宗天皇御宇

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

なびきなくゝうの花ハなをは井ゝ

川ゝ氏柳ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

第十五　池のあるけみてゝ

水乳詩ヨミハあまゝ井ゝ八直かす

見ハ柳のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

あゝゝさゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ふをあきゝを

かの多り海ゝて　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

葉の八文角ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

かをゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

義　八重なる葉（はなあること）

八重　山風に霞吹くこゝろ花あれと色こそ

しゆりをちれしかし波

松　花乃枝を色こそ染まとゝ花の色で

しそ咲き見るやも

并　花の事をうたはうり

義　霞吹くこゝろ花をいろ花と吹と

きこうしてさかしひ来花

為なとふとうとし

宮　花をわすれし

松　白雲あれ色事あらせ　義

白雲　をちこち地乃河ふ波を色こゝ川と桜花

かゝる宇治の川風

松　うあくこちとなかなくこてのひそこ

義　花ハ浪ふ色こてさせこうせ

松　葉せ　義

中ねをまうてすし

あをひしこいまこゝる者こゝ

義　ふ者こゝをさをひうせ

りやうさまなり

舟わたりの神せ

えをいらくあそひて

河酬酬集 右玉子いらくとくさうなもあり

河水玉 そ弐調元年新玉 河邊の遊宴

そ海ちに真角ちとあるや 紀右年み

ちなえをいらくとり書写る

話を又勸盃の席ハ酬酬玉と

真いりせるに北す 紀酒ハ花絃後

こみうり曲て此曲を声数ちと前後

ちうや或説ハ字駅初度の清遊を

なて右玉を引らさんもれ可紀

いり詞ちのみのさくうり廊なと

あまこは河のり玉ましてやうへさもお

ぬ紀り

村上御記應和元年四月十日藤裏

舟玉奏酬酬玉舞人定人と今集酬酬

玉ハ右玉老舟玉ちり玉例せあるや

秘

花月流

義

河海花鳥ニ云ハク　私義ニハ古義ニ同事

ときこえ

舟ハ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

月ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

乃至如何ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

醉ノ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

秘

八文ノ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

秘ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

弁

宇治流ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

私ハ義ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

義

秘ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

御所の杼をさしてはやきと
ちゝ八丈を染し
弁 八丈乃宮の事
来字流之 平者に對して以り
山ざしひさうあじろ宝やりぬからの
河 善通の細代まてくまきの屏風や萱も
山庄からのあるしまき洞庭は八宮事
や深骨り吟西をとなまて細絵まて内
会ふるおや蘂遥屏風ともやえひある

屏風とはおなえ車のおは行もり
しん中は蝶てふみさるおき其様のあせ
さるをしてかきりえひ
松 おひさるやりあなり顔り
来 ふかりひた靈しなれあり
ともさあとをもさる人
絃乃類なさ人し
一らいてうりの白ふ行らし人おぬ紅
河 搔人 一流地久破同音 高麓双調

さくらの人うのるとちるあめしまり
とりてれふかてうりえやうま
やあとうんやうまや二條とし
しあとともいとえんをちうこう西
きりつまよさうせうれいあもまれこや
うやあとしもされこうやや 摂馬三品

元

橘人い呂弁せ呂ハ双調律ハ平調也双
調ハ平調ハ多ハ黄鐘調をわうしてあ
ゆえ一黄鐘調しも則人呂や盡中わを橘

秘

人うのるとちるあめ
ひりうは橘人ハ呂弁まて双調なりを
一黄鐘調ハうう 物をうや橘人の
調ようのあちてりうしい面白調ありう
ちあいうめうしいふ調さて 美
まううひるあや
あううの美ハうちんを

参

源氏ハ妻なハとて皆やうに人
かうあまはハ多ハ早下しうせう

八重垣の上にまうけたる紙花をとりあつめ
ゝてあれはもやはり
松 面白く興あるものなり
取捨事うるわしくひきうつせ
松 猥食應なり
なを海人とうとうとやしかるべきあり
はるみ口伝のあるべきなり
何 生孫王 嵯峨を生る家を本編しあり
おなじさし口伝代古人正口伝と人を利

古今序ふ人丸正三位を歌さ利
の位しわるに比ぶるうり位を
ゝ統はきさ利のとあるは正三位を歌
ゝ先ハ大若せ主乃字を氏の口伝と云
せ生孫王ゝ同神せ
美 なを海人とうとうハ王孫の半歌さ
みと同神せ口伝の半歌さ
ゝ猥の若せ
色いしとか人を

何 瓶子取人

[illegible]

義 葉しりつまこうふ若こらとせ

秘 第子地なり

[illegible]

秘 白髮なり

かやすきほとあるぬ

義 さやとに同年

[illegible]

白兵ヶ宮義 殿上童せ 幸

山橋 白[illegible]

[illegible]

何 我やとこのむら野上者[illegible]

上[illegible]

秘 姫君[illegible]

[illegible]

我やとこのむらはし 義幸

野とむ川[illegible]

河

春の野にすみれつむとて我そ
野をなつかしみ一夜ねにける人

宗尊

むつまじみの親春長を組たる泉水
半元

むつまじの一夜ゆへ
野をむつまじと春ゆへ
善通の中納言ハみれやそ美中
流元不審
元 白文字法ハ一夜とゆへ

野をむつまじと春ゆへ
再 春の野ハ春ゆへ
春ゆへ

松

春ゆへ
ゆへを春ゆへ

春

川辺 春の野ハ草ゆへ
春ゆへ

流元 ゆへ
春 ゆへ

一海上於西行を中宮ふうせ給へ
行八文のなりすまし
物うしとも思きこゆまて
舟の花なりしかし
かけ〳〵おもむきに山川の気色を
見給ふの人
昇〳〵うかせ給へこの御志をハ
見給ふ気色を見ぬ
年の花のなかめ給ハ世ハ式

わすれ給ふまじきこと
野をしたてしも
何奥へ
ふたてしこと何の人物ゆ
ゆ
川方に不南
白雲をとゝめ御みのあ行
ゆゆしの行ふ
白ゆせ
河海川方不叶ハ

流志まして右有へうすまじ
義河海川不相叶　就中小野乃さ
りもおもしろくてもさて桂川
河可在之
義さは川風も心もなみさ海り
義花乃川風の前二首ともはてうけぬ
宇治瀬も八文まそしも西方乃桂なさ
海なり
流もえ入り右大納言哥せしまして

秘紅梅せし上よりの作事まして事あり
葉はおもくもしまする所へうなくへ了
并紅梅右左尺せ　紅梅大納言と右大納言と
かさ文霧を右左尺とへうい紅梅
まえも見さ紀しみてあり
物さいりして見ぬひ入りあ
何名いそく流くまれさ紀みてえ入り結よ
たてうや
文を入さまへきは皆いまして

秋

草子地や

業

白文をはいくとつくり出てわきまへ

はしりへおぼえんと思ふ也

ひろの露しからやあるかの

秋

草子花や

業

百八字法花時言葉二月東物の花真

とさらせとう時ふや

ふるの春やまちのうちとうとと思ふ

河

唐詩　和歌　詩訓ウタ

うちくくうくの物言やかのうくみを

くうあまきを古今序

ぶ子まいにもえいびを

八文色ふとうもいびを行ふを

ばりあく白文の思ふや

ふうくなくてもはふくはのうあ

秋

菫の三りはのうくも文をかよ八月

業

菫は仏ありてうくとやうくとるあの

ふもかと

元

あしたの秋とうたてとみてし新
関の戸をこそはわすれうきたり 仲正

山川の不自由
夏と秋きこそ
秘 八重やをさりあらそ紅葉せす
ゆくとも

中くに心とれめうに
さてなさ事をけさりめ世てあり
あくハ又秋ともに人さ先さ見るやり

りあるものをそ 幸義

れもはあをはうれり
なれさり斗りの事
秘 あれ先や
義 大若をし物の頃しう斗りこの世
りまさうあ人せ世の事はめく
もの生れまし
まの作まくをいくくかくあり

河海抄書二
大若代九歩
中若代三歩

[illegible]

[illegible]

秘 八文乃清浄也

筆 此者[illegible]乃御[illegible]也

[illegible]

秘 [illegible]

筆 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 八文は筆の末ふまて蔵[illegible]

[illegible]

弄 八文のうち[illegible]する事を先[illegible]

[illegible]

[illegible]

筆 善者ハ死期を[illegible]

あるうへは八条おとゝのうへ
をしこさんとおもふ事なれば
姫君をうらをもんすて
女房のうへをうらをもり
なりよりさハりむさせすしこさんハ
御制せ
年ころのれ事をうたいにいとゝ
ゆきされたてまつる
世間の御ものこれをおれ
こゝろうれ
をしこさんとおもふ事なれば
八条おとゝのうへよ
ゆるされたまへ姫君をうらの
いとゝ御ものうすとてみをて
四人のれをみされをんとうへ
かんをうきこゆるとも
御すさのりいあるすとも
姫君をうらの話らしの事なり

八文字屋より出す花の
ことのはゆゑ花の人の
ゆうしつらもうれしく
もうかはなさりの事は
と仰ぶしてハ文字の事をれし
なり

私

世間ハ八文字の所若道の事を業を
うしろたと笑せ給ふ乃
事まいひよりの人なりしを

さ為りあるくもあるすれよ
くくえしてさ為くあるしあり
ぬ分のうらせ

さ為てあるれ分
さ為ともてい分
しとも

物まうしての中分
業
俊宣乃分うしあハ
なすのいくとをに

河 かいつのの事せ又ながらせ

三文字れみてい

秘 白文なり

高くきこゆれり人事相中持つの物

細しになりぬ

秘 志つ多くきくそまつ白文昇をと

を以逆あり法せ

弁 蓋昇との事をいつりいつ先つさ宿

因なりにやせ義

秘 つの秋中納云り花多事おやり

を義多白生事のつせの物とハ白文

字法して云あをひ法しの物蓋長

蓋事相しての物とんつして事の法の

あ心竹川よ人乃昇逆の事とか

きりしを対し同事せ

弁 白文乃字法して云花ひのひ方事

の物といつり共云せ蓋乃事およで

れ真秋と云義ふれ南事と稱北事

相模国三年中竹内久兵
衛の事を書りし事也
山城国相中納言門跡中納言
今又この物中納言殿
いつかたくいはれ
花
蓋の実の文を書
秘
蓋の名せ異説
ぬ事ひてはけるも
せしはなしをかう

弁
蓋の秘伝相模の事を
りまて字伝の大姓者
はしのひしせ
義
毎にたりてうしをかう
色ぶりをいかの色あの
秘
相模の事せ罷をもろ
かの色人をはあしかり
秘
弁若せ義
ちまはしてハ

業

あをたちなるやうにてぬうさ吉をと
すゑやをゝるの妙せ
宇治うゝ川にてくゝ久しうゝ成ぬる紙
蓋の八文字をひらくとうゝひらく
とゝる出さうせ

七月ハうゝうなるにうり

秋

若しうの秋中納言ひとゝ出うゝて青
うゝうに成ぬるうゝといふをれ書ハ
人をゝしうゝ為れれをあやまり

是一ハ羅漢寺七月なるゝ一業
都ハ八まゝ入ゝ為ぬ姫乃ゝきをゝを
の山ちゝ

元祐

吉川出の和歌さゝ秋風ハ為ぬ
ゝを為れ和あゝり
今業高羽山ハ都をれ遊まゝ乃山ハ
宇治ゝ川いゝゝりて乃半をゝり

寺

若狭宇治ゝ川ゝゝ西角
海ゝの山ゝてゝゝ文つゝて

秘 行りてけさ酒と字治川をきをいり
福井の中とみも之義
秘 れこそこは
秘 ふるとまりたにはけれなりとも
秘 ふハはいとまいももちもちもひ
秘 見乃祝りう字治よまうでゝ久しく成
りをあとらの祝をりけりはるまい
もしもいかりまり
ものもそこうをはりをれてゝ久ハ

秘 薑乃祝
秘 前ハ山中と八条の行事とうゝ云
せ薑の祝や
世中に名代ゝゝ
秘 ゝゝさを行事をを有すてゝ
尋 有ゝりうを
たゝりまなれひされ
秘 道心ゆゝわ道はあををを
なゝ命のゝりハゝゝみまり

色しきや　義

さはかりくちをしめてひかる人なれは

弁 兼出家の心さしおはしをうちとも

見えさてしきや

義 かくのことく世たに繊細する猶かなや

夜梅のこき月のあかき夜なれはさしいてゝ山乃

さらぬれ何らすかに

義 八宮の御ゆく我そらひとくつ飲し

あるや是ハ山のし出かるやうたる

ことされそあられへこの月読にて

はいれ世をはて御心さん

秘 八宮の綱首时の事をおひやり給之　弁

くちりなしまてかやうなる都の月み

秘 九重と云義はいれも宮中を祢せ

義 九重ハ天子之不用し常也　今三十八

宮中（トヨム）

弁 禁中也　九重　私抹也　以上弁

河 九重　離騒曰君之門以九重　王逸之

天門九有九重法湯城圓門西向大
道門九重也
白氏文集四庚門九重閉
[illegible]
秘 男女共ともなく成ぬる
[illegible]
なかふかの[illegible]の重[illegible]をもてあ[illegible]
筆四[illegible]ところ[illegible]みたるなく
なるかねてまもり[illegible]

以成男[illegible]
をのうちをいとこ海[illegible]く
[illegible]
[illegible]成[illegible]
人のもとうるか
筆 人[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]河
[illegible]
行事[illegible]女[illegible]
秘 我[illegible]

女のうへとくの話りは何事をも
人の著お代生するなのあるをや
はるまはれこのゆゑにれまやあん
家 人の心代をうわなるあり言葉と罷
あるしをや
これ道の心をみを
古代より水流れて変てのを
をのこをいうことやの心を
家 男女代くあり男子の者の心を

みるを事をとをれうえ
女をかりりてひとひなれうに
幸 女子ハかひかひしくひけてとみを
ゆしかうえしをや
いくさ出さうえし
秘 男子ハ
家 業の心代世大若中者の事
をの話りあるや
をうをはをに者をうをうけや

作人

松

蓋乃翁我為ハ若紙の長き笑ひなるは
さらすてさらまにやむしハ秋されと
人のとゝてゝ紙動すハ世ゝ也 并

蓋乃翁也世間の事とさらすてさる
なき事也

義

私義の義我一世乃人の事と柳乃
事ハ世代とゝめぬ故とゝ別
さて新さらさらすてさる

しとゝ乃のゝ
さらさらひとゝ
さらさらせとゝ 并 河海

松

河海乃みさらさら侍婆塞乃村て
の詞ハ此ハ仙合乃事とて西乃
一ゝ乃ゝ三ゝ

山琴也

義

花鳥河海乃ゝ此河海乃義乃
黄老浮時嬰兒部而難とゝ
私世義蓋乃ゝ世間乃事乃

[illegible]

[illegible]

何

香山大樹緊那羅於佛前彈琴

奏八百四千音樂迦葉尊者忘國俄

而乾闥婆（出大樹緊那羅經法華文句第二卷）乾闥婆王奏樂

直得須弥震動大海騰波（川逆）迦葉起舞

傳灯録

大樹緊那羅云大樹緊那羅子善量

緊及元量乾元量諸天奏四千浄妙

樂言未至佛所經歌一動声振大千須

弥山踊没海仰一切声聞皆涎座起揺

如舞戯天冠并同迦葉言廿歌知足頭

陀第一乃於今日猶如小児迦葉答言

[illegible]

秘

八[illegible]乃[illegible]

[illegible]

幸

[illegible]

まれハうのおしめよや
箏
前ゟあきらん語ともの話しるハ海風ふ
くしのよへきそうしめよや
ゆうのさむしきれ
弄
妙若なりくし
私若よりハ中若箏をゆかりしも乾
箏
中若や
然りりて世しりおふ枝まても
董乃あれきく西の中く打かけて置と
なりしひきのよへき事よハおり様ハさも

去年てさえ乃語をあそ
かくりおしそあはかれこそまハ
秘
契をとまおしすおや
弄
箏
琴のトふこゆ内や列しうせうれ
よきまきおとちふ
花
わか乾人をとこれなとハいや
秘
まろき人浅いくりけ妻をこもろ人とも
弄
妙君らうよゆかりのよ哉
箏
まうれ人乃世ひされと浅き事をとこ

[illegible]せ
仏のおしへ
業 持仏堂なる[illegible]
[illegible]
八氏 我なりて[illegible]
[illegible]
秘 一[illegible]は琴の[illegible]
業 此一[illegible]は琴をもせ[illegible]
私八氏の[illegible]

あまの[illegible]
行歩を一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
八氏の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

義 八月の中とのこすれ行てせ
芒薄へうりの初田とそあらし
世 いろん世ありとれ世人あれ世のうらう
世人家業はいろりを
秘 我世をあまつまうこそせ
業 まうしは薄之八月をなつさあ秋う
所せ
世間おし業やもとこそ
秘 河海りみうり寿

霊仁天皇七年 戊申 七月尚 麻獵連子等
国野見宿祢令搏力二人相撲之咎奉
足相獵則獵連之脇骨云獵折其
脇骨殺之故奪獵連地賜宿祢其
邑腰折田録せ 神亀三年令諸国始
進相撲人
七月十六日同相撲召御せ廿六日内取
小月廿五日 廿八日召合 小月廿七日 廿九日抜出
小月廿八日 諸国の 佐渡人をあり

めて御覧するや和ハ合はさりて
御覧ありを按出し給ゑ

はられ給ふ法名しきつゝ人形もさうし給
葉の八象へさうりかへ給頭之
かのこゝれゝとのゝなる人
秘
弁のおまゝ之 筆
のこりおほかりかめゆくとり
栢木の事此ゆくえまゐへし

書きしてたくまりて
筆
此君なからや月の籠中へ御入なり
しり奥けく長前や
乞ぬかり物かりのきやうに
葉のけかりくぬき海之
御うゐきにいつ色ふし
筆
此君くらや
三条いとゆうしおほいなるおもとく
秘
葉の白文九年をおもひ出給つるや

わりなきを

業 菫の花ちるを見て

はるかりてゆふいかに

業 八文の方ちゆゆ一つ事

あるまじきことを

菫と一番ふうあ事をなんと思ふ

かうさ海をなりなる海ハ

人の物しみをうえをさをふ口事

かうへきや

日ありじかりなりまし

我ものやと思りる海

のちりをけるあいらを

業 菫の花

松 八文をうん後の事をうをひを

一事や

女ハまりやうに者をんとをひ海ハ

ぬをて

白文の方を実し思ひ事ハ和歌

[illegible]

秋ふかくたなびきしに

八月ばり　河

悲哉秋くる為気蕭瑟　文選　秋は菩提門

なるゆゑなり　拙乃公あり

文をいふ心は

八文字　拙

きいのうつるうすずみて念仏とはれ

ありさんし　拙

河岡型のちかくしるしをつる

草　河

ひ事の念仏の事べ

傳教大師云富捨悪見諸縁事　富

義富勝菩提心應富連向蘭若處

欲彼富成妙事徳

阿弥陀仏執持名号若一日乃至七日

一心不乱　河弥陀経文

世のうつりてはかのうれを

秘

八まの説

世のことハ世間の定まりなひとも
思ひなくまむこと有りてしも
それうしろなとあるとても事と
なるべきのやうにさんまとしんうやあるさ
なくなるさハ無益也

河

喜命八千不顧出頂と長病延生死ナ住

四論

親と絶知門性法長病臺ハ

私ものとのうしろみ我さへ長病のや
うにまるよりんうとむけうしなるもの
うにそなたをひするさやうにしん
とてもうるふるさみてまるさろ
おして別ものやうの事と同しかりう
ヒ生の事をとや
さるとまんうしろけれ事
八まうなるなん後の事也後の字ハ
うしろなとしたり

是法華経をかきたてまつる

秘 世の事せ

六の山里をあくれば

業 此義訓はあくまで大悪の心を

ひろく意へも法華経をかきたてまつる

部さうに学なせハ事ともあらじと

ゆるし給へり

秘 一向に学せいなりてをけ

ゆるし給へハ宮しゆりの文田保の

後世ゆかんと仰せられて後つゆ法華経

をうけ

寄 一向に学問してせハ年月いさ

てゆるせなりといへり

業 一向ならせ世の事に貪著せずして

ゆるしなせすとゆるしなせ

の修行

はるかにみやこをこめて

女房へこそ申してさうと申し候

合ふ事なるべしとや
ことかくしの内にんげんまてハ判り
なりされす

秘　姫君さまの仏はなかの中と

秘　我分の内ハ事別とかゝ
宮さまわ是ハ事の内ハ
ヒの事の風にきかせあり
まさに式のまゝまてもとう
なく姫君さまの仏ひとつとや

仏のうちゆこそ
秘　八宮の仏さまを
秘　なすとひつゝめ
ふさまれ給ハ
秘　ようとりまてさかしと
ハ事ハ仏なる神
并　八宮の仏世の人ハ
ハ事ハあり
私八宮のうちにまれ給ハ

秘

境界縁のくもしるしみえ

河園梨のちえたくさん前の日の事

わるいのかもこしらえて

八重さくせる沙羅の姫さらの

いそぎ沙羅とは中におはせ

やすくせりこさこてあるもしさ

卜簡ないたくみあるさるの事の

ありや

さくのちちうへのの事まく

秘

鼓姫さしもなりれ人の姫ばかり

さはりつもてしまくのとちるる

事勿論の事ぞ

ちはきりたなりのまて

秘

家々乃流末ともに之をも

さすらへ侍るとも

義 けにたゝちあはれ人もこちみちさまよ

物さびしく谷明り世をとゐハ

義 昔ハうしほしなりとも定まての事也

ことに西方古文乃御ことの外すなはち世

りし時の事ハさてをきれなる秘事にて

ねし時只今の上の事しろくし

きく名なきのめぬ御あての事也

あはれしく人よみ人もおよぶ毎

義 多く人をけりあひたる受領ものけ

らし給ひしきハあはれにてハあらん

すまひしとも文海さる事をいはされり

の事を思ひハく魚の子すや

秘 華厚昇沈輪与明かゝれりや

おもひよれるさまの事

秘 非常の御ことせ　さらにあはれに入給

ひとつ下仏ハ世代さまさなる事

とぞいへり
なりにしほとけになされし
弁 八宗のうちにあまた入道ありける中にか
しこくわたりしハ世にありける人事と
思へり
日ころしておそろしく候しつゝ
河右 さまよひ出ていかにもしかましくあらく
あはれよにきくこそ有しかるらん
秘 説りて世に耳ちかき人のありと

親りかれり 弁
義 をさな子親をおもふ女子の為之
いかなるまてもゆるみなき世まて
義 女乃見苦しハ汚れなるひたてまつることさ
事なるべし
あみこなるひるよ三まい
秘 念仏三昧也 弁
義 三昧ハ定ト翻ずるや 念仏三昧一七日
なるべし

何

傳教大師云以諸方便樂因静攝心

於彼得三昧

我於佛法中知一行三昧所謂念佛

三昧 華厳経 光を念仏三昧と云

いたりてもちまきてゆくたしか

八宮わさのるていたりてうかふ

ゆかはまいりたしるかれとも

無 死期のちかくある也

ものいたりて

所者ものもの也

ゆうとわさあるにして

何 嘉方 ものいのちのまさかふつさて

ものいはねあるうれ花 免

ものもしてきこしめす

無 又ものとなれかたふいつ外ものか

ものか

あるうれ望くいたりまいり

ものもの

[illegible]

秘 河岡利春殿

[illegible]

秘 河岡梨の助殿

[illegible]

秘 姉君へ

いつもこれ出ひらき

秘 此寺にて統をもり遣として

私世話河岡利春殿仲合より御なを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義 姉君の方の時分

[illegible]

[illegible]

河 八月廿日の[illegible]

月[illegible]

幸 [illegible]二月山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八宮[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]杜子美詩[illegible]

[illegible]

杪

[illegible]鳥杜子美驚[illegible]減[illegible]

[illegible]

美

花鳥杜詩驚[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杪

[illegible]

世法[illegible]上の[illegible]

[illegible]

[illegible]

又[illegible]

八[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河國利生のまことをあらはせり海をわたりて

集 八宮のうれたきこゝろ浦ハうきものゆゑ

さりのまゝゆゑなく姫君ハ

はるく思ふ事をも

入るの浦かいなきもゆく

秘 姫君こゝろゆゑ

集 又子内侍ハ

そひ給こゝろやうあひ

なりてひまひまを

入なとしのび

給ふ事ハ

秘 姫君ハ

ゆゑ

いかゞ

ハ宮し姫君こゝろ

くらまり

中納言殿しハ

秘 萱草

又あひみぬ事こゝ中し

義

さきのちひ八宮はかくれ給ひ
世のうきれ給人なきに
第八文はかりの事と心ふかけるひ
人なれハ耳とまるゝ事ひしきと
董の名也

明日の事とは思ふ
何ぞ 伊勢物語
伊勢物語
明日の事ハ思はさるを
事はかりの中心あり義門曰

如此ものゝ中なりとも
姫君ゝの第ゝ董の望ゝと思
ひしまゝ
よのはかなきのまゝに
ふれ色又ゝのわるまゝれからの清
事なゝ八文なてハ別りあるも
しさ人なまゝ八なのはかの歌の
われの類なハあれとゝ董も董
乃姫君ゝをひ給ふ

あきぬ東の色ちかし

河 明ぬ東のそらるるにやとしをあらうといひしはつくるや 寒方羽に

光 人しまぬ秋やハ月をあきりくるたくひぬるうちのなりて

松小乃川ちを 秋年 筆不明し 兵部君

こちの色ハ

秋乃しるしをりよかしるよ

河 秋ハ付ぬりし神をし 古今長年

筆

まりし流乃瀧しあまこハ光ハ流乃時

ぬをとせ こし 但神乃時ぬし流の瀧

そひろわして 牧感わるくや

あるそひ巻うオのくれ者しあ乃ぬき

そ流乃瀧も

皆取よつをこ流ハ月をとりよ者す

乃具ちせ

河

わ乃世をハ多うあくまろ乃

なみ乃瀧し以ま一ぬきん

私不及はせを但一ノ川くん
かうまゝ年れいのうを
姫君くらの事や
れくらゆいくらは
業
八文乃おりせしくや
御つれ者れい
業
白文へ文ものせ事なとゝ
中納ゆはかうゝ成
墨へハ文乃ものせ事くゝ年と白文

乃くうみ
もみちのさりに
秘
前りのゝ事くゝ
私
昔乃文字法して作文なとのゝ
ゆくやゝ
ゆいくゝとてね
業
世日の獄乃ゝ色くうをいとを
いとゝ
白文乃文のくゝ

義 [illegible]
[illegible]
秘 [illegible]
[illegible]
弁 白髮のあらせうう
義 上白ハ山星をうやふさ〻トタハ白髮
のあるなるものをせられたあれ
なる時分ものはきてさそとも
星をもひやりまうや

義 [illegible]
義 文の親や
[illegible]
[illegible]
秘 [illegible]
義 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 中君の詠 義

[illegible]

義 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

義 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜の[illegible]

[illegible]

[illegible]

業 海の霧と世をのがれ麻与麻
まつ野とくしの心は我らしらなれ
ろこそ

元 かきくらしたるのすみづき
河 墨紙服者の新紙にかき紙よりも
の墨はきさ紙のかたちを比類なき手
元 墨紙をまひまの墨をいと一業
こきくさの山のかたちをなりて
河 はるの霞 みすさ山さしくもれぬもいひしらて

業 あもとうたはせひしめを
あもりよ雪のよ東かとも思し人猶とも
ふとも思せ

元 けの乃手代こあひひきもひろ行とれく
八重の花ゑさくらの色はくさ藤の生
ふ東とも業

河 古 けの海の海苔の子月とあ天六
しくけをたらん

秘 きくりの人の手みこくさの山さる八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘　なくてあるにはきこゆる歌

秘　ひとりはこれをきいて井とはいはるる

八宮の御事をあるべきの事やいと

哀にくちをしくてもあるべきせ

わるは我心にそなるべきなるべ

とおぼす

秘　あるべきかたにてんとうさ

秘　姫君こちらの御

一ところの御事にまいるべきにて

秘　八宮の事

思ひすなるものの御ふれ

秘　ちりぬるべくもあるべき事なれど細くて

事のまことにもあるべきことの八宮

の遺言をもとりあつかしれぬ

なりさへれなるべきやはをきんを

秘　ちりぬるさの歌

元　藤相如の弾琴をきくと

むかしをそれをもいへなるべ

きこえん法師

世中なれども

こゝの文字のことく

白文より見ハ

なをのハしまとゝ

なをの乃ゆりさ海の事と

られしもやうゝ

抄 白文の文乃さ海

かさけゝゝゝふと

白文ゝゝ乃ゆ

のもゝゝ

仏乃ゆりの海とも

歌 何ゝゝ見ハ

ゆゝ乃ゆりゆ

仏乃称ともなれハ打とけて文字

ともかよハさん

ゝゝとも

かれもゝもやゝ

秘 菖蒲はけちひの折も風流なる
実説也

河 気外 祝 寿碑

幷 ちくしうにぬさおやりそれなりや
けいこそそもろもろまうして居へり

秘 いこそ織せ

秘 ちくはあやめ
東乃部ちくのそりちくに

幷 服者乃祝事屋小者居あるこ義

秘 服者ちくにもそくやつ
まてすみ多へり

十三 礼記喪大記又母之喪居倚廬不塗
寢苫枕土といへり

やうにまちひの人面れわりに
服者の心ともせ

まちゆく白ひみちちく

秘 菖乃名所せ

うやうよはりく苦乃伝ひまに

秘　業の歌

きゝ〳〵しき姫しりえとやなれ京めり
物の高すゝめをひゝけの事せ
なゝもひきゝきゝくし

業　此流れあるの事をきゝめとせ人は
てにものなゝ牛毒潤結ゆうせ

秘　我ハぬ女乃うさはなれとせ
ゆさ海うしとてゝ

秘　大者乃歌

きゝいてゝうゝもりなれ清ゆ乃ぬうさり
な舞

元　ゝの事とりてゝいゝ
弁　あやゝなゝ乃ゝ業乃歌

秘　業乃歌ゝの事といてゝ

業　業の歌道理ハさうゝや
私左理きゝゝれとゝ乃りゝ乃清
心ゝれゝ乃いゝなゝ
月日乃ゝけハゝ乃ゝきゝれゝしく

秘

月日の光をも我身の方にうつむ
るための月日のくもりてゆく
いくしほのきうとや

第

大君の我とくをなとをあハ
しそはしもあ人をさひて
をかの方にはかさ花ちか
くてのうとをとりあつと菫の
のはなをや
かくりよせう

第

菫の第に花をしてをりあき
をのはなるせや

又世界さうゝ薬をうとあきゝ光
きこしまかしく

又大君の御光のうちとをなく
さあうとうとやや

秘

のはなを中あハはうきむうをを
色こさうや

市にそいとをひなをかう

桜

きぬ人々の袖

むすこ海とそをうゆ田てこ所々孔節

ゐ也と

桜

八宮坂ねの川付ちと立わらの氏

一年せ年

業

山坂大者の氏寄して茅子の地よ

うきるかや

をこうかきりとと

大者のそつつ人をこう出ふる也

おくをあんさ海

姫君こちの谷年と寄して董乃

乃浮と

又の浮ひちこりし年

業

八文乃姫君こちの事と董の浮

をれし年と

うこそ所一こさを乃ひ

業

董乃さ海と男しし風流ゆ人と立

立ちとこそうく

第

氣味こそ新しく八重咲きなれ
なれ高砂

私をわかしてさそふ公元
第十五そふ男いとそうさそとを
わりつるはるををしけるを

秘

八重のまさきれいつる方なく
てあしらひをつるを

私ものこうかなる事なもをつる者
しるを見そね八重の重へのひを

きこ事を使て大若の葉をかをや
ゆこのまこさてまつ所
大若のをひを重のこ母
ちさ事のすさけ

河

服部の関文之

第

清墨里海之

第

橘姫より和歌事

第

文ちるあ花をとりくも墨深こ剣
あ神を切ひこそやま

筆 清茅舎の中もくらきわせ
の清茅乃うへとうとく神のとも
しを四ひやりうと墨俣を服若
乃をの色
左方若 いろうとれ神をを霧乃剣をりまてわ
分うをうしをれをれをろあき
秘 姫乃をを中重は之服乃神せい
命りは山やまをうる神は滅り霧の
をを所なるへしをや

弁 色乃霧神を服乃神せ
筆 我神を霧の剣をりにすをう霧
のをれ所なをとわをうをうをや
をは霧糸り
河古 をを長をうを糸ハをひ人乃袋の
玉のををうなりぬ霧
弁 川霧 秘 筆 川日弁
ひををを光をすをき
秘 玉の光

[illegible]人うこうれさうりに

弁　[illegible]大[illegible]の[illegible]

こよおきとはいり

[illegible]いま[illegible]きあつあ

筆　柏木　八宮なりの事

ありうこ[illegible]ほ[illegible]しき

秘　柏木からの事

弁　柏木の[illegible]事をみうへ

[illegible]ふそまつ

秘　薫乃祖源[illegible]とし[illegible]事[illegible]約[illegible]

[illegible]ふ歳なりはま[illegible]源の崩御八年

[illegible]せ

弁　源氏う薫のを流し事約[illegible]歳

[illegible]て別[illegible]ひ[illegible]や

筆　六条院崩御の事[illegible]

[illegible]うさ[illegible]世[illegible]のをひ

筆　官位世[illegible]代[illegible]なりを

[illegible]りやうの御[illegible]

義 八重の宮殿の住すまひ
かつとう秋の世の四季
ながめ
八宮の年ゆき葉のもとあれ
ぬ
住さまうとも
心ぐるしうて三海の年ゆきの
桜 姫君 義
おもうあてきこえんをうけ
給はり

并 葉の海
桜 姫君
姫君
世にたてまつりさえ
ハ
ゆかしう侍
葉の朝
花 うばゆめ
なりかやとかの
ゆかしつるか
河 海 并 花鳥 院九三一月

秘　松花乃流組人こそ
なりぬてもかの時とあやまれる
秘　なりぬては我身をえうはゆめ
弁　かりれるは八文の時間
花もなれるあるはかりの
秘　物本は花をすくひたもや
葉乃数分のすくひ事とり侍
さのんをまして　弁者
れけりひかものくれる

秘　物本よりの組みたもや
弁　葉と物本ともみるや
松葉乃組ゆへ一入物の事と
なりいくるもや
おぼゝまのより　何源氏
秘　後より出まこそ
さりんをかの大頭云のはれとこみく
秘　弁事之系図をもり八文の出方
弁とはいとこや　弁

弁　あのとこハ　秋のとしよせ

筆　山系図を者ゝ　かさて　ゆわいゝ　ゆ

さてゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

をさ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

弁　若の　藤業　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

秘　姫君の母

弁　八宮の方事

かの殿ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

秘　殿仕大臣かゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

弁　殿仕大臣ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

河　水原抄云　母ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　母ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ひゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

の母方　母ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible] 上 河海

[illegible]

秘 自然称 余[illegible]モ千[illegible]八有三[illegible]

[illegible] 八[illegible]

系図注[illegible]

秘 [illegible]の清[illegible]八

拍[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつの
ねくらといとゝ
葉の残りまつをて落てし又拾ひ
のゆかいとゝ
又まつとゝ
秋
ゆうの手をとゝ
の紅ゆまつ
角葉のいとゝ
まつ葉

辛
秋
ゆ
ゆ
いとゝ
秋
河
秋
秋
ゆ
ゆ
葉
あ
辛
八宮

ゆくらやうちちのめ
かきりのもあるをけをけと
ゆきしとして
はやハうりはりあまこそ
かもに

元
三秋の中
弁
同し秋のうちにや
秋
こゝはも八月ニハ九月ニ同し三秋の
ちなるはいとり

おりはまんうしまうす
八宮の御法をもそこ
きいの人あいう
世をもて法ゆ
ちうひはてハ
はりはんぞのぐも
何
法会涌泉芸
仏ハみはりのちよ
実
河園梨の寺すや

かく面白の人々け

業 大徳寺の[illegible]

[illegible]

心のままに推察する事

いと[illegible]

業 佐竹の人のいとゆせ

りなきてわれ

取とけれと感ふ[illegible]

蓋 [illegible]の時あ[illegible]

[illegible]

弁 かゆりの心[illegible]

松 蓋の名[illegible]

[illegible]

業 世をゆり八鷹[illegible]

河内 [illegible]

[illegible]

打擦 ゆ[illegible]

[illegible]

日

[illegible]

[illegible]

今ハさりとも第[illegible]

第 八宮にハさもハ姫君ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第 姫君ハ八宮の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思ひて

業 八宮の事せ

河 ぬしなりゆくをはるてなりと

れ世をはかりかねる

ものをとれさせ給へ

河新勅 東の露のきりくや世中の

主ひさしうもあるへき

業 川の水の露のきりくハ宮にとれて

世をハ角とさるつるはくもあるへ

きてあをくゝ海を月日をれて

第八まてなりぬ

きゝをとるはゆくゝ紅の色なり

けるゝ世をてあるきれハ

見ると又八宮のおもてをうか

さ水茎のうの水のうちをひて

ゆくゝ世をかゝ別り義ゝ

ゝとれまゝり

たゝ幸の事に成る事をいのり
海ゆかんとする人に
秘
たゝめやり山すみのこゝろを
業
八重のはたはなを
心ゆたかに行末まもる人こゝろ
まもり出てゝ成れとし
かるしるしに成るあるべき
一の祈りひや
心をけすいのりあり

河
なれとゝりかゝるかなゝ
かゝる事成れとこゝろ
秘
水若乃ひや
業
世ゝ行ゝ幸ゝゝゝ此水若の事ゝ
人ゝ海ゝかゝひゝ
辛
ちゝゝゝ
あゝりとゝゝこゝ
業
水若ゝゝゝ
ゝゝさゝ高氏ゝゝ

[illegible]てたまゝうのゝ望ひて

秘　[illegible]さけ方や

河　好物の菓子の儀ありて　水布物　墨之

[illegible]の菓拾の事を経文にと　榊薪

及菓蔬なりあり　笠　河海

私ひろを菓薪ありをうを家宅同

経文より拾薪設食とあり

秘　河岡利生の河

[illegible]ゝを

[illegible]八文の時ものの[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘　[illegible]

[illegible]

[illegible]

きこえくやまし
義 此御命令にあらハ
まし
[illegible]
[illegible]なくて
[illegible]
何方
世[illegible]
[illegible]
秘
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]義也

中考
たく山の松葉より雪をとをしみ
しをを思はもしらく

秘
松のえの雪は落てくるれさわれ
又ちりそふ事のあはせ消ゆ

人のえりこさをとらをいふるや
山平伊勢大輔集
松に雪のうはをうしにつて

芝武部

たく山の松葉に散る雪ちも移
ちたるかをとをかき

也し

消やすき霧のいろたくなをは
きたくをちる松の雪ふる

北若の月寄とは物語り月うの事
有りて十ヶ所ばかりみさるを玉ヶ所山寄
上ヶ井里の名代わり所ばかりなれど
山城ばかりの物も新拾遺よりへうを
五首を撰用うるいたるべふ所あり
ようこそ秘

等

松ノ葉の雪消やらでみるやく
後つりあやなきへとうやりふ
あまこうこそ雪ふりて

をいひおしうるかりうやもしくを
みしりをやと親しそうに年をみ
しは上ヶ井寄或りう井之后ふ
を松ノ雪ふにきしなりとい海り
を消やをれあ雪しうたりしいて
松葉このうちを見うを

松

雪をみしうるやうやもりうやや
中納言ノ若あうしき年を立ても

葉や　年姫ハ　ナホヤケコト　天晴なる人
らさぬ故や
なるこさ人こゝにみてを
大なるの人さへみぬ山里や
まいりもとみいまて
秘　世中の志り浦物なるや
筆　大芳の心ひかを感しなを
なみなる光なるぬ情夫をけ
河　服若乃調度い毎物是多なるへきて

年　服若乃物ゝ是なりやはまはさるぬ
秘　なを葉の前（ヒ）ふるゝ
只し服若の時調度ゝ時是浦九心
宮のまちまちひ
秘　故多なり
ゑいりなるを年をハけまちく
大芳乃葉へ射面の年
年ひ心なる九屋ゝ
人のかゝまを意切なるをなぬや

なりぬるよりいとをかしく
いとをかしくて侍る
幸 物さびしきあしたの
さびしくもあるかなとあはれにて
義 大荒の薄の穂の所切とはなびき
かなしきものとをえるまもと
秘 薄の心 義
ひとりなびきませなる
秘 薄の穂の所なる

幸 物さび
解 解ゆえて幸はなびきたるか
なりのせ
文のいとあやしくく
秘 白文 義 薄の穂
ありれかるとしたる紙
秘 故文の遺を白かりなびしら
文しらに侍すれ
ふしまこしらえ

幸

葦の白妙ゝ中あるらゝや
ゝゝゝ白妙の浪ゝ
ゝいゝゝ白妙きゝ

幸

白妙の袖をいつ

松

をゝあてゝよの浪ゝゝ

ゝゝゝ

元
菫と字治の蕈同名に白菫花号字治
弁
川辺乃如しとあるす菫の字治と
ゑ一字違ひ
等
毎字治への蕈同名
私花弁　等秘
我如し傾しうゆゑに白菫いとハ
きてとせ
何ゆいとけなきてみるん
秘
何とてかはなきいとけなきせ

等
菫もとも菫乃大きへ変訓せ
ちいの菫ゆゑ人ときこしなんへの
ゆれし
秘
白菫の好菫をいてり
なんさりしかるの好きりの古歌
ゆゑてゆひきやとゆゑなりとゆ
かゝゆ如小菫ひ
秘
心わされ人乃なひきやとなりとハ
ゆゑをかしそひ好ゆ性のまり

まことをえてしさかしこのかたのことは
辛 白雪のなかにさきのこりたるうめのはなのかをかぐはしきにあてはめてや
秘 何事かあるにまさりてをかしきを蓋のいひくせかたきこと
公界の事をせんとまうしたるは大きなるけしかをこしたるはよろぬ人の事と心をくてわろきにうけをさうまをすれば
辛 せうはとれまりにそみゆまとこと
況 ばかりさきもあるさまもせ
辛 大きなる人のたとへはなきうなるぬ人
の事をえのはなとなるとれ
なりうしんゆまとはゆまはあ
ぬるこ
秘 なにとあてハ
えしよりぬ人のもろもろをうあ

人名を書うたやみこの名をいと
華多あにそなりさの川といふをり
河水 神なひの三宝
神なる乃三宝の名やはうたん
三田乃川のあれまこまこの
幸 名をよかりぬ人乃心をうかの里は
人名をもあれ幸をしるを
筆 川多龍田乃川のあれまこれうの世界
やさうかいりぬ心を見も人の世界をこ

こゝ世猛さへこてうれらぬまは
人乃さうのれくみゆうなるなう人
あわうをや
幸 さの川ハふうをいとうあを
花 名ハ男ゆうをくまてはくやあを
色をいを
松花鳥の義ゆ
心乃ゆをしこを
幸 白文の幸

松

白菊はさきとなれる事と谷とをも
清き気にかをりあはせるいとなれる
花性はなれ人をそ姫性なりける
はなれ人をそうらにうもく事おもく
清心さきをうふひらにうもく事おもく
なとは一性はさきんをく
清心なる事を勿論心なるもの
おもうさんとをくわとれをよ
元の人うもや

人のみをてきつりをを事を

菊

菊を白菊の紫はれくもも
三月三日なる義

白菊のはさきやと
白菊の清事を古間心なりは菊
はるは（さきやと
清なるはのかをみをりあをを

河

中蝶のあるをこなをあるくををさよれ

花

菊の字法のかをもひをり師のをををを

みくまの川はみなかみ
なりなといふやうなる
りあしをやむなくなり
妹か人の手といふ河海
秘 河海の流れしあるこれなり
くるせ 義
寄 葦の若芽とかりそ
われこそ人の手とは
秘 妹か人の手
義 あね君の我手とハ
人の妻ゆえさて
手ぶりの白玉の手をハ
妻ゆえさていふ人と
いたしはをくしたに
秘 妹か人の袖をくしハかゆ
ふせ 我身ハ
ふせ
義 古文の葦

秘　菫の根ねもとの
雪をかきのけて
芽　菫の間
大雪の為のうへ少きゝ
へさきまでもかゝるなり

私秘の芽不書　義秘
雪を雪をかゝみもけて
義　菫の雪をふゝしわきて春のうゝ紙
大雪し山の人　おゝしかも
秘　菫の根ねもとの芽をいとり
ゝの山ゝ世月
秘　中雪ゝもゝ
花　白文をいゝうゝと姫雪ゝ世ゝ
芽
ゝいひゝを毎世

[illegible]

秘 白文中者[illegible]

なり 弁

いさやそれも人のわさとうえうえ

秘 いけるいつれは人のさかりかな

[illegible]

私蓋の大[illegible]を枝ぬにびひ中[illegible]

[illegible]

業 又大[illegible]をさうう中[illegible]

きゆつや

清[illegible]

花 白文の清みの[illegible]ハ姫[illegible]

させのうつりや中[illegible]のゆさせるに

やし蓋の姫[illegible]

秘 蓋のうちひ[illegible]

[illegible]

秘 かーうう[illegible]姫[illegible]

業 姫君の白[illegible]

葉にうつしたる事
えさせたり給ふ
大若の也
雪ふりしかの山はみねみか
よめるもみぬか
秘 雪うもれて色葉のかくれかよ
しかもいと
かくれいる
辛 紅葉
紅葉の色
なるもの
はるのひと
はるしてのはるもの
葉の紅 白葉の生事を
思ひてよめる
はるくるあるみもの
くるまやうつん
秘 上句ハ雑歌なり
色葉にうつしたる事
なるもの
はるのひと
はるしてのはるもの
葉の紅 白葉の生事を
思ひてよめる
はるくるあるみもの山川をうつし
くるまやうつん
秘 上句ハ雑歌なり

トヲハ白波とも云我身の登場と
いとゝ白し
業 古き梅茅の宿川をわたる人々
あつまりて
寿 董の姫君ひとりとあるさ
ふる人ゝ
うの宰さゝゝ
何方 清香山ゝ
さゝゝ人ゝ

寿 川ゝ
秘 町のゝていゝ
なり 清香山ゝ
おもゝすみりの
秘 大君の白ゝ 業
董のけさゝ
きゝやたゝ
秘 董の白ゝ
くゝ

えんけんしてあそび

義　鄙氣也　風流めきていあるべき方者

のさま

うらもとはわるまかりしまて

義　大者の物狂言葉の作りあるべ

しに物まねしさしこと

葉のかりしはけさうかりと方者の

みしらぬさまなるや

雷いとをとをとめへり

可　雲しるかりあるて五月雨や凍雲合かて

雷の許り多鳴まり

心ふかしうかあくさまなる海なな

りまや

秘　葉の紅葉　我陰ふたもとをとん

こなり義

角山里の風ふしいと寒ふる雨

義　見ハ三条宮の事を葉のうせや

いと光てさうなくきうれと

筆 宮女ともの名ども

中の君をいとうつくしう

秘 中将童のうしろ姿

うつくしう美しけや

幸 女房の名ども方にわかれ〳〵ハ中将ろ

ゆ なるべし 中将乃さとなるまゝ三年と思ひ

ゆ て

かうり香もてさはらし

橘姫さうし草のうへと衣をしかけ

けしきの人〳〵

うづひきもうつ

秘 たをづひをかなとせ 幸 筆とも并

人乃さ海

何 鞠 舞 鞠 鞠 日 たとつひきとか

つをとをとかけ

うれしのゆめ

ものの人乃まゝ

いたりおりゆきて

秘　あまをぶねのうらや　蓮の葉

世中にあるむしろへしかるべく

秘　この年人の和

いろをうしなはんものとは

元古　俗人のうきてをうこれとハあの

むをなく和らぎ

等　本　ものとしもあり

おりゆくこと

秘　あ宮のもとにて方せ

世ものの年人をゆきせうや

仏のこゝろ花のうきはすて

元　ゆくこゝろハ詞　又清衣ともいへ

それのこゝろハ擬ふるの事なり

又花喜之

秘　のこゝろハ而已也　此説と一通

あこゝをひきうしてあり

平　此こゝのもこゝをひしこと

私は義うけ給はりて世を
おこなひ給ふ人をみるとはを
てみるに時花かとそなへ入
おこなひ給ふ人ゆゑと成し又
愚案佛の花をかりて花のかりをも
へとしは瑞花臺なるべきを
はるかおこなひ給ふ人をみるに
うなしとやうやうとて捨てはまて
みるに色は八葉の花にはひ

し見ゆる本方をかしと色彩をも
しらかとそなひ給ふ蓋い
なりかとはかりかをしはをとく
うるうるを世尊平花の分をは
はをは義なるをとをとをとき
ゆ

かいをとをけりをちをきこと
蓋の八宮一の法ひ一乗
蓋の出家しあはとなるまりか

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私義ノ義ハ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

氣色ありてこれをとらせ
しるしとらせし但有
らんこれをもかりもあるよの
ものをもかり
秘
ク書し
義ク書此之事ハ弟
ちやうのつかう事しとい書通り
それもいすれとし

義我こそうるハ歌なりし
ちやう年

まつうりあるものの
義ク書い官爵もうりのうり我
ともふくし
うりのあるうく
秘
人のうりとまりうりとる心事
義別心うるとうる

[illegible]

鷹の事 小い雄大い雌鳥着雄鳥

病とりてうかいおごり男いまけ事

よしとくるし

義経 先鷹雄 分鷹雌

さるかくるかくるかくるかくる

少者の我分に事とれるなし

はたてかもしかけるとも

雲井鷹の落ちかけること事

[illegible]

[illegible]

はまりこと中よりはたらきまち

はまりこおりこと中ちてをとれること

一波のうれとも

うこあるきのうにまりこんや

うし

くや姫と行方の前に居りこと

[illegible]

一説韓侍郎傳より 寺林而但定方

事人

水原之赤姫乃元よりのりし時よ
てちうと為時よりのそそいられたち
しまところ

秘 竹取ものがたり寺様事一巻くとし

義韓非子寺様而何先

并 竹元乃心

竹元のおもてよりや姫の事と云物
よりおせりとれい夫物乃砂すにわ

さてまいりひるの別よりとそ
紙ものし

関 竹取の事とひ〳〵おなし共男女の
ものしうすきしむとひるの物と
いて

おもひとひ為れて

秘 員立場乃九

并 おもき

とこ法ものとの心し 愚心

とこ法ものとの心とそ

(行)誘ヲコシラフ　擾ヲコシラフ　義

(秘)ゑ簡にてとこ弁

いとにうひうにうらうらひて

(秘)雲井屋

ふりわかんしや

(秘)ふりそかてそとし

義ふるそれる我そと雲井屋の

まし

(弁)雲井屋　卍二　夕雲卍七ゝ

夕雲十二雲井屋十四ノ時　亥注御い

卍年お遠し　源氏卍一　蓬巻より

せ御い卍巻　源氏五十歳　夕雲卍ゝ

屋　雲井屋　卍二ゝ

ゐてゝりゐゝ注ゐて

(行)かゐてゝりつゝとゝんゝゐゝてゝさて

俄ゝおゐとゐゐ卍ゝ

(秘)ゑ御てゝりつゝさとゝ　弁義内

俄ゝとゐゐとゐゐゝ

秘 夕顔羽衣 竹事の物まねるごとし
あの川ぞいとうけてこそ行ものの
ねとこいすがるごとし
まつといゆるさぬ
閑 かの尼どもの物をとのもし
よくすねさせこしする
いとこしるしあるんとしものとうと
ひとりとうこりてのものの心わるくや
尼どもの物やくるしかるべきこと

きり
今も物わるくて雲井
屋とり夕顔と引ばそそまん
とて家のものといふるとや
法ることもものを
的 大夫乳母云信富世とひまま
ひとりこの人乃物あるも
秘 女二宮のまとりつかること 花
羽 女二宮物のあいてとあくて夕顔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲井雁の返歌

[illegible]

秘

夕雲もとゝろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふるいとどうかうしう
雲井 屠の九
にてとし

元明の文とうり

一乗乃法山廻り
宮とゝ年下心より
義 雲井 屠のわさきりてけのうち
小野の山風とひきてうやまりき
うのゝとゝ心し上の紅より夕雲の
うやまりしてそ宗流もえまうる

一乗院
大覚寺殿
てとわうとゝ
ゝとわさうて
一乗寺ゝ
ゝ
ゝ

年
ふつゝ色々言いまあんうるとうゆうる
のゝのゝとそゝのゝんと
々言の初し
四ゝゝ乃こゝ忘ゆおゝうゝて
閑
これゝて山中と一人ひゆおうう
はおよおわせし時四ゝゝ
ゝ行う
いゝふゝてゝにゝう
祝ゝゝむゝひゝゝゝゝゝゝゝ乃みと

いふかぎりなきこゝろ
をもて一面の色をとき
わるくして
行ひにうくしの心
花わるくしとこゝろ
秘心のわるくしくこれうこゝろ
義毎物ノ分わるくしとこゝろ多い
わざをえて治つとし
をやうるくしをや

異
雲井屋とゝ名ノ音のるくこゝろ行
事
同
雲井屋のゝ名音とある所ゝく
しのゝしし
心屋すくゝ毎のりんる
秘まりてゝ對面るくてゝとし
同
歌業のゝ名やすくゝ遠行まりくこ
ゝとし
人ものゝ乃ものゝ

秘 此息所い行ふ
い坊日ゑれい行ゑ
ん日ゑ行ふ行ふと
河坊日異義
九坊日不下出行ふ
日也
元借事 行ふ
牝ふん事とふそ
異 いふていたふ
ふふふふ
ふふふふ
ふふふ

私小野一の尼ぬまのしけきを
かりそめにかりの枕いむすそ
とし

わすれめやこえすすもる
寒雪なりさらしとりへるい之用
の事うとし形の来とうるおる
ゆりせ

同
光とすゝき波よすへきをあやしの
ゆくもうてていうせうれとも

人参ね罷と云説して風
除すると云ありや

和
光茶ゆ物ねとらやとり
る罷と云ぬとし云説より罷を
うるもし 尊

元
うるたりとりやとりとあり
わるの海いてみよ 和泉式部
と業氏長百乃章も一茶うりも

御とをりの紙にて作さてい
ま一筆乃うとあいひらやこうり
てつよ御いねとうあのかりや
といひうせりさすうりあうとね
心みり
宮りいとあり
為業への夕うのみし
こまやよりとうさるうりたしと
さて

駿馬
稽の鞍い御方れのうるとくせ
大ねい御方とりてつよ
一筆のきとそ
秘たうこのせりとうして年
人より宮御方よりて
夕方乃ゆ一なりねね事のさう
とたくり事よりひとすて
うとよいとうつ

小野の事し

のちはさこしとも

秘 こやと一所はかりこ

はしりまとさこ

地事

いとしこうやこはし

はやと一所のはこ

さしこのはのうち

秘 女二こはいはとも

実事をけ事いうしとも

はしり

くいこしうおうのうと

事 はやと一所のはのうちを女二こはは

おうつ

きいすりをはこうる

蔵美のこはし

地別 はつ

のとおよりり

はとのこおりこうけは

（秘）
ひとへに心をしづめ音ゆくよわたり
とのつとめ
私おもひしそのかたはまのとり
みづから音のすなし
いはうよりむつかしきことを
（秘）
こゝろすべの文ゆるす給ふ弁
おもひすとおさうくあらけすちの数
為業の心おさうくあらけすちの数
詞し

ゆすのうぬるうをも
こゝろと所乃我事をとりて
そのうこゝろいうしろすく
はけとまていうやはかの別乃法
くうとは屋すくしくやうとひ
とや
はけうこゝはとそこのうりはけうこと
少音は事うとこゝとおりてこゝまこいて
はけうこつうこゝはとこゝ

とさうしやと百の帝とをうけて
めしまとし
きてくすまうしまつりぬる
女のくしてりとみるる
忠臣事二君貞女不更二夫
ひのうちにかもつねる
秘 柏木ひのもしたる所
うすと
流りつしめてまつりて

これい女二宮と柏木もとうるる
ましし源い朱雀院ちくみい後仕
大臣とりて 野
うるはしやまつる
秘 源のさこめ給事みれと
大そうとうとりて
分のうさと世乃うさのうるはしれい
いまはしそうしうしし
或云 おひそうし 大臣 ヒ二行海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為業の儀

秘 実相のみを

実相 実相しかしてその行より

他国

れたるにあらず為業

為業乃至海

ら海をもりて

儀と所乃為業を見てまもりて

ことを思ふよりわたり

人ふかき海まり

すくせのわたり

ふまきにくるよりとひとうろ

為こうりてうりうとの

秘 大日如来ことに行ひをいい

ひとと甚深もうさし 定業いう

こうとわうさ

付 如法に法に

成就不成就とうくきり悪世間
乃ものこと
御ものがたり
此地獄成就無成就ありけり
可見
なりてこれを
秘一巻ものがたり乃宮とりもんぜ乃
まし此世乃心
乃心えを入給ね

陳絶のくさもものがたりみれども
自をくいけを
迷乃ごとくこれを
地のけをつるを後入給せ
さるをとうりを
とりてこれを事とときのやう
よりて
さるをこれをありけるこそ
義尼の信をまうこ

えいこのれせうとして
秘 山のれ門のれ潟見し事
日てうもうをのみとと
秘 見よりれうをの初事
ひうをいをのうしあり海
うれて所のをくうをまぶりうを為業
うけうをとあり
れうのようさてあるかと
秘 うれて所の遠云日久しくのうを
とうをうしあやうあるとあり
しせ
れうしけうる狩うて
葬送乃初うらの狩うを
をうをりのうロつうてあるうをと
秘 少事初事
いをうをあいせんとうてかのをうを
之条えるうてのをうを
うをうをとうて

秘 心よりそゆるすゆ
ゆしけはひさしてそめそしこ
こころのうこに
秘 穢氣とり了てこるし
私 菊井選すくるゆるしられこれ
源りつよおいせね
夕景乃秘し
作のるこ世のけりこ海の人乃うこるね
しいとうるこるこりこ

秘 殊勝の祓し
秘 こりこりとここりけこ海よ
秘 これこりり夕景の祓し
夕景の紀のねるよのよ
夏しこしるけこること
常い夏と経まといてりこれ夏
こりこりこりこ むりこ
こ紀し
おりこ海これりあるこれ

[illegible]

秘 大内の事ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

毎年そうてるそれいらゝ居さ
まもなくして所
ゆゑよりてうりせとうち
仍自とうりて居らへ
ゝとうゝぬれかうゝ海りて
なんと強さうゝ
此年乃紙ねもとりゝみれゝ紙
表のうゝ
ゝうゝせのゝ
ゝうゝいさゝ也作りね

秘
是ゝうゝ書（ゝ紙
私は義なるゝいまゝうゝとと
ゝうねとゝすゝう書（ゝ紙表の
ゝ紙

尋
此かうゝ海りてゝうゝ場行と
一女二ゝの事ゝよみ私ゝゝて四て
ゝうゝせのゝ
ゝゝ也ゝとゝ義
ゝゝうゝ書のまゝとき
は義て用

[illegible]

舞 夕音作

[illegible]

夕音の我身の[illegible]

[illegible]

舞 [illegible]やと有の夕[illegible]

[illegible]

秋 夕[illegible]りの事[illegible]

[illegible]

同 夕音の舞[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕音とうたふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕景の詞

きこえなくさめのなかて
為業ここえるくるみあはせとし
こよしをたりしとらはつる

秘葬礼なり

こはるのくさ

夕景乃家仕のくさ
人をとるをうひて
夕景のをうたと

却やとをうをもも
親をもあはうをもも
乃こをしとし

この仕事をとゆ
為業のる

わくをうをて
仕事所われと
西乃ひさしをやて
まより

延暦八年十二月皇太后宮崩天皇
狩遷正殿沛西廂
義引之　芝岡史ノ語し
命さへ　ありなと
命さへ　ありなと　なりはこそ
やすくそあらんけり
引く
すゑのよまでもきこえ
ありなと　よろはれたりけ
ありしなけきてたれうやとてあのう
せのうしとおもうしあはし
のちは世のはつこのさへや
秘　こやすあるは罪障なとこそ
はしへのはとは
ケさうのもし
と事のとちり
秘　異事のすち弁
私別ニ牧ニ

わう心よりあらはれとなりひ
ろうりのすとはいにしへのそひ
なくさむらいうまれるあるうとや
ゆ音の心
大文のうせ行てしと
秘 養上の母うつゆ音乃昔のすを
とひおのすし事
養ゆ音の心 養上の山母のすや
は一段いうう無欲を表とも同人い
むつまじきあるう 甚俗授を引て
心一つよりひのすもて
ちしのあるれさうもあるひ行られ
とこそうの世乃うられておうや
けしくしてう
養 授仕上ひい母の若をおるてむる
うりうそ四九ふ三くといるる
くとし
花 おうやけしくしてうとうとうとう

[illegible]きまれるものとして
六条院の中[illegible]行ん[illegible]
秘 殺仕[illegible]も源い行ん[illegible]
[illegible]
[illegible]乱雲といふ[illegible]
[illegible]
秘 殺仕[illegible]も相[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
女君[illegible]の[illegible]中[illegible]
秘 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

いつり

我〳〵凡夫にてある人の
花
重井屋の我〳〵凡夫にてありの
まゝよの結びねとなくも
重
雲の屋の凡しクさまりの陽凡と
くさまの義し
尋
夕雲乃仏花雲の屋の凡も
あり　夕雲の心し
我〳〵凡夫にてある人二乗れる

也　貳の義いさすの心し
又云貳乃あり凡れとなくさまとて
われい六の事とる四如い重井
屋の心し
私重井屋の心白海し　但能く書の
脱とうけてくさまの乃心ち
重井屋の凡六といなとくさま
くさまうして我凡夫乃
かりつくさまとおりひた

佐さやと一ての事とおさまりて
ようやくやとさびあとてうち
さて次乃初しそおりけるかく
ゑんしうひてみとうちうとと
ありり少音のれ絃
おうりうれうにおりしてて
少音のみとの（おのふ事うち
れいうとうして
秘
弥とうれてまうおうとうし

絃し
うまうまうまて
こうれうるうれの
秘
唐れりのいうすまし
角うまうまて
秘
うりりうて
つうとし
舞
ひうまうらうの事とひうち
のう

小乃あるべき所をいとと
秘　すかるべきことやうのこと
ものの
さしてこれはよろしからぬ
ものも
寿　女房のおりてをうけんとする所
のようとをうへ一所にてかたらうん
とも
一巻をうけ乃ものを
秘　とをうへ一所にをけをとけ
しうやをと一所のはゆうをとを
所をてのようちう
義教記屋すの乃寿り一巻ら
の言をうりをとのうし
少言の一巻をうりありて更事よ
うをうをうをすし
ものをに
野の稲をうへ

山里のうつろふ

引板

ふるさとの秋ものさびる

穀穂黄　白氏文集

うきにへるかりの

我心より愁とそ思ふし　平

人のうとひよりそしらるる

ふるしふるさとのやうるれそのうらめ

ふるさとのこのうねうつ

おくふかくやあるらんと

義夕雲の月を眺とつくる

秋ちくてを

秋思てとし　平

ふるさとの秋

夕日さしむかひるたすのかと

夕物のあるものさ秋うるかなを

月ありう雲もいとうしうの秋山

のうとうあうるとうるのり雲月用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

櫟（ウバ）（和名トウルリ）黒色し芝て黒服と為し
又四位已上袍とも芝て為れ
り此るこの衣を図くしも
打樣とてまうが松よりてう奥
ばく 義

かくばこせねばとの
少将（秘）吾乃初し 義
義ばこうあすあのるし
こころうとうこと

義家のれ仏とい
ふるへとにとうあ
義毎へうり
私思ふと交よりてよりて我意を
りのやとふとへのうあて 心し
かしとのれかこも
義夕吾初
こうへもまして
義みはや

うの葉乃はかりさへ
かゝるの和尊
花
花いかゝるの花葉のはかり
かてりいかゝ音のうの丹すのとそう
しかとそうやと一和のはるけうし
しまとうこうし
をはかりはかまし
秘
柏木遊去のはけ女花おうすす一和
とおうしてはのうしてまし

くうこ　義尊図
こうはうけうとおまへうこうれ
うのはまし
秘
二義ありはまへとはれ葉一和とこく
ケ音のかしはひうえはけまと
又乃葉い女二ふの一はまし
和うこううのうこ
義はれうけさい　故こやす一和す
尊
ケ音のうひこうこうまとこやを

[illegible]

[illegible]

私石書ヨリ至

私はいとうけさい所ゝとかの題をする

おもへとい女之文のまゝとへてうち

うれしの所はけ[illegible]ゝゝい夕霧へ

一ゝゝゝの所あ[illegible]するゝゝ所ゝ

少ゝのゝゝゝし[illegible]て此次の夕霧

の初ゝゝくゝゝゝゝゝゝ

うれしの所をしき

夕霧ゝはたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝ

うれゝゝゝゝゝゝゝ

義ゝ此所

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

此時いれまゐらせとて女二宮乃ぶてゝ
ゝとゝ
私義業乃こゝろ
ゝれのゆゝしきこゝろて
あいしまるとゝ乃ゆゝしさて多年の
こゝろ
いこゝいかゝ老こゝ
今いまゝ百ゝこゝ身ゝ
此ゝ乃もいとこゝさ頼ゝ
朱雀院

こゝろ乃事さゝ
多年ゝこゝ
とゝのゝ
こゝ世のこゝ
まゝいかゝ
みゝこゝ
こゝゝ
世中心
世のゝ

を面の別とし

秋柏木の事より及ぶ歌を先さ

わくらてらやと面の事つらそ

む歌へし

うらすけさて

世羽墨乃さ海し

うれ去とめやとて

秋うれしとしもむまて明さらに

我ちくめや独ある事は

年秋 義関引く

ゆくとしとも小野の去れ家ちてきく

我も去うてそ新もものしまる

小野篠原こうい名前よりあ名歌

原とうつり 義

河

わさちのく小野乃篠原とん迎に回

の名歌し 小野と小野のこのうと

もうつて去けさん

後宣集

小野のことく小乃墨とうう

乃屋とうとうそうしつる
私もこれもこうてそいさてそしさ〳〵と
いつ美し　麻とあ〳〵るし
（忍ぶの君）
うり妻　麻けさ秋の山へを麻なく
秋よ苦しそそうへつる
（秘）
女羽　君　奇　舞
心あ〳〵し
よう〳〵秋とあう〳〵に
は限るよ地へ

いはいう〳〵あさもう　秋美の
（秘）
女子の此事
さそしねはそうひも
夕方乃ゑもんをそひうち事
十三（じうさんち）の月いとうやに
九月也　日本まれ名月よ見え但
ふるさ集るとそんをひ法ち
貴しする事よ
小倉の山も毎とうもう

秋の夜の月の光はさやけきれ
くもゐの山もこえぬべらなり
秘
引哥よみ侍りける　くもゐの月
ことし
雲井なる月をくもゐの山乃端
晴るさやけし
翠
引哥　不用小倉山もくもりなし
ことし　中哥　くもゐの山とお倉山と
くもるらんやあらぬ雨ふる

関
とくれなゐのもみぢ
此哥　ことしはもみぢ
ことあり
山桜のさかりなし
大和ことあり　秘　柏木寺
クヽ音
ひとり人乃新しき池あり
ひとり宿りの秋乃月
浪撰　浪撰と侍りて
よみ侍りて

[illegible]

秘 三条家

[illegible]

秘 [illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

三条流の一幷
[illegible]

三条流のくゝとゝもきれいさたさ
[illegible]

花 [illegible]

三条流の御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるせてきのてうこのかりくて和
う海しき事やけんと歌きのふ
なしう
ちいさうきあるふ
関屋ノうきし
尋 重井屋とクメ書の色紙とうを
やとし
人めもみれて
きあるはわりつけきこいの人の屋敷
めもとうう海しうまきうり
なうきき事のいてきこう海ふ西国ふ
みまりきとし
世乃ふありしうり
尋 七つの事うきさ浦中と人をうひ
ととし
あ人あり
尋 なやうりあるとくをうひ
そしきぐふ

寿 一百ゆうしゅうそひさしてすち
いとなつさうしと
秘 雲井雁し
そひ給へる
雲ゐ雁もいまはの事よそひつゝく
さうまのやうにしなす紙
ねし
夕霧 いかとうはおとろかさんゆゑ衆の
美さめてとういひし一とを

秘 とゝいくわさまりしき美の世をと
およはす和とうけていろとしタ
きりれしよまちのふと美さめて
とうとしあると
寿 ひとつまりてと女二宮乃くのひ
しまをタ霧ゆのふと美さめ
てとしあり
義下向い乃和みくわさまりを
美の世とまりしのとひさ田ひなり

[illegible]
を此歌乃此一云とも[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

寺

小野山乃寺とゝ[illegible]のみやうき
結もんとゝ[illegible]双紙ゆんゝそ
[illegible]りの[illegible]
みゝてし

私[illegible]ゝ[illegible]す秘義ノ伝
[illegible]

みこりをいゝてゝ[illegible]
花
寄の中ゝ初ゝ[illegible]

みこりいゝの[illegible]
私みこりとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]事とゝ[illegible]
似
雲ゐ[illegible]乃[illegible]
[illegible]

小野よりの帰るさ
なのりつるほどもとてるひすさま
秘 夕さりのみよるべき
中よりひさしくなりて
夕雲のみとひさゆりてとかゆる
のみのみへてあるとすると
めるに見るとてそちと
秘 ほのぼのしるひるとし
異 女二文の見るひしと夕雲とり

なるよ
花 見るかぎりみのぼるとし
見つけるとて
異 川剣とりうへ
義孝卿 あさりなるとねとろかの野山い
角えねほのぼや春の
花 文のほのぼるひつる寺
なり
秘 はるよ春の野とわり夕雲

乃みよいうたしての弄び紀すり
とんえ多り弄
弄
とやとりうまえうし
夕雪乃方ちりみやうさえのひ
風ふり紙とりたけてり
雪乃山路ちれいあやうやと
ふしうるし
秘
ひうやとうみるれてつきあらせ
てふるし 贈ひうさまるかも

秘
ふとつ色さとうち
弄
辛みるしてあさ音しるとも
とつけてふるいうやよれい根
量せし
出てみる
秘
ふてわるし
弄
多みるのやうるさのひし
弄
多しあさ撥紙とり音の見紙
ふてあすりとし大さ世の人みさ見

知も仏法をひろめんと願
ふるゝ心しなり
う法門仏ゝ祖ゝ
秘
本心をいうゝ
神し

懺悔乃
いとゝ
見ゝ多善の意をうしなと
源のあり
行ゝ
問ゝ仏法

重罪乃心をあらため
我仏法の方へ
まとし　相承の
業をもゝ
ゝとひ
秘
我仏法乃方へ
ゝ

さうり乃事ハ
ゆ事のさうりの事ハ
わるし
女乃事のこたへ
いろゝ
とゝ
さゆて
やと
秘
紫上乃心し
女うり分とてすさゆと
紫上分とゝ
ゆとゝの
ひさいりし
秘
わゆりの
よすれい
とゝ
うれいう
たるゝ

無言太子[ムコンタイシ]

[illegible]

私何海[illegible]無言の行も

[illegible]

法師[illegible]無言の[illegible]

[illegible]

無言太子波羅奈王之太子其名休

睨容端正生而十三年不言人不聞

也諸臣婆羅門道士等誹謗地下

作城欲埋之時大臣伏其車前童悲

此事太子云我得不言生而欲埋將

言怖入地獄自全身不害欲救魂晩苦

謗我不言者皆欲生聾盲于時国王

夫人行迎太子々々曰我昔先身為

国王以正道雖治國有取過墮地獄六

万餘歳苦難忍我師地獄餘巻舌不

言遂請出家又母聞之許之入

深山求道命終生兜率天太子者尺

首周位し太子休毘經

●義付義とのと

又或經ようへくする爲蛤とくうへて食
とせんとするに不彼童子を見て
云ふおそうけて彼角しとき
爲とし一のまして食とす
太子甚罪りよりて惡角のち
り王子とする云言たるこれせし
生れて十三年まて知いとす仍

去ようのまんとするにたるのいく
言當罪不言當咎とく太子い尺迦
如來し見物系尺
ようとりていうてそりの角とる
如

義右一段題目の外乃心用乃大す
うるものとの的とを知乃義とをしる
も用流身をしてと本ゑうへくさ
もとしの

秘

けるを及び誠し女の一生と云ひて
中庸といふ書に
とくとんすいりうとき事とし
といふ女一文字の心あり
義曰女一文字の御ことあり処を
云ふなり故に引用て心西国
を会し
女一文字今上皇一乃皇女明石女御殿
皆上とうとうとて
なりけり

秘

なりし
大和国まつりの人なれどもありて
少貴源氏の作うく系なり
けりしゆうしられて
少貴のやうにと源乃ゆうく
なりし

秘

源乃初

秘動
ことせまり
或本ことせ
とうなり

ことせより
なるなり

秘

[illegible]
柏木弁三年と 秘
行海一月不名
三年と又とい
ゝり行モ記し 弁
青表紙三十年
とあり 元亨
其元い源氏と
年五十歳し
菱巻 廿二歳時
朱雀院即位
有て世花ド
ちゝ時分し

柏木のゝ世話てと年し

義 花宴図

イ本 三十とも世とゝ行り朱雀院御在
位乃時とさせりとき

[illegible]

秘 永天ゝ朝臣貪名利乃ゝ為りて
少乃事とゝうさるゝ世ゝ弁

義 川付侍

弁 源氏絵

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

弁 少事乃芸世の人事を川寄
のゝ

十八十七カ
廿十九日

秘
なくなることは
聞
なくみねとなるも
秘
虎ちもとのつかせるとん
源の初聞
のみたて
聞
為業之事
ことにふるてこそ
此恩所の所
ふるい絶へ
及ひ絶ひ
のみのみつ
虎もいこうこう
朱雀もあるのとき
のみたてこそいこうにおしのみ
秘
女こうし少者乃心とんとそとひ
のみて
入道之ちりこつ
聞
為業之事とり者りとん

まゐりて先女房たち
つきのかたの所へ
出たいといふものあり
花文字にいとをかしくかの
五月の女二宮の御事に一うちとぬ
ちりのてう
秘少将
私少将の御へ
兼
歌業文の事をかの御へ
ものの
兼
私源少将の御へ
ものの
兼
ものの
兼
少将
文乃御事をもうけ
歌業文の御事をかの少将
ぬるの
いとつれる
兼
源氏心

世にてもいとなつきすくしとい
ふかうらし
おとうのすくよりの心よ
源の九郎（秘）成俊つきすくしおもいよ
より源の心とも見るし
私生活の心れ実にすくるあ
つきさうしらよ
源のうれうしこゝにてすくり実見も

毛貝みとし
うてれ法じよりうりうて
夕寄し　れをを面乃法ゝ
女うれ心わさうるあ
（秘）政仕方ものを書しゝ法ゝ夕寄い
実にうれい形女文乃御方の心わさ
こうゝしと法し弁
義経美れ新みのを殺仕いとひ
のすし

この日は昔乃心わすれて
殺仕方　梅本の姿うるはしく
ひのもの
弄　花やと面の花うそ乃日し　梅本の
うりみれい先世ハ殺仕方
見給ふ
こと迷うれ
秘　紅梅の方ゆ
義　紅梅ゆ乃心
時の人乃うれ
秘　世ゆ見らうと人とひとつきうり
弄　はと始うと人の仏事ゆ乃
らひとし
秘　ういてすと
秘　はゆ野ゆすと
なり多事ゆ
秘　お家乃心
弄
いとゆるゆうと

流派の物語しる事とし朱雀
乃うゝ作るゝ物やや
げ母わまことに海うゝ海。
物語事し
女之文ようらつくき尼ようゝ作る
ゆとゝゝ
アマタトサマカラサマトハ女二乃相手
乃後夕雪ようひきゝ作るん事
いうゝと流もおうゝ物せいうし
うゝうゝくゝ紙ゝ海ゝと事物れ
ハ夕雪といとひうゝ物語海
うゝ流とし
私事ノ後ノ義ニ物し奥ノまる
地ニテこゝうゝ
ゝ母うゝ世とまそゝに
朱雀流乃作分の事
之文ようゝと
女之文

やうのことあるひとは
同(の)類ノ物ことゝ心し 朱雀院も此物語
アリ 女三宮おなし此ことを
女二宮の同類ことゝ
物語

又歌業の物語ありてこれいとゝ
私同しやうの事とし 舟
世のうきよりけて
秘 へくこと無へくすとし

こゝろうきものゝ此ことを
秘 まゝ花し
夕霧の事し 舟

し給へくて
ものゝ
秘 かゝりの事
や

こゝろの事もあるに
舟 少こゝろのまゝゆへ尼よりうり給
こゝしあるし

とや

私ノ人きてつとらや実事のかり
と世ゝの沙汰とくしてそて沙の
意四ゝうゝねやゝの事ゝ尾ゝかり
沙と世のきゝてかゝいクメ書ゝ
ゆひそひてあいせんゝりもゝろ
くゝきるかゝとかゝ
とゝうゝ
きりとてみわゝつ思て

秘
夕書の事し
朱雀の沙ゝ
ゝゝ夕書の事と
ゝりとはゝ
ゝれゝゝ
ゝし

かれ
秘
ゝ
みゝと

ゝとゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

少将の今はそのようなる
しるしをもせるるべきに
あらずとて
私ごとのうらめしなるて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一条殿[illegible]
一条殿[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

より[illegible]まつりて成敗して
さてそといてつ
弄
上乃殿より一条殿とうしまし
る心ありてそれなつてさてそと
[illegible]ぬ[illegible]ねと
の意にて
大和国へ意にてすると
れありしかて
秘
少将一条殿へすると

秘
大和国の事も仰せ
大和国へ国替のことを
くまつりよりいとるしと
少さつの事と大和国へ
けはこのことをて
弄
少さつの志とけさの方にて之へて
心ゆへさつ[illegible]
義宣女さつの[illegible]

わるものをぬすみ
さてそいかしつゝ
義女二郎乃妻
人皇女こそいうなれ
まれるし
秘 柏木の事も十分なる事と
也 聖
一ときわやい世のもてはやす
義義業の妻ひとりのかなしう
ぬすみ
女乃ひとりよ
秘 かゝる事とし
悪さらのきこえたる
秘 さてうんぬしたち
うゐさるまきまと
秘 三月のみるとそうつさ
事し 聖
右題はねとせむ

秘 二人乃女房達し

異 為業の方乃二人の女房し

ふうの御九まい

秘 くいまうくくとまいられても

さもおりさねとも

異 くさはしくとまつくくさて

まうふようふうかとろくあると

ひすの上根下根のくりかる

もうふかし

秘 時とうあうくあるくとも 異

高系文 乃りりみ 堂乃 艶みちまして

おりねうくようふうかとも

秘 すはのおりれたうやくうあるとて

とうねうくたくさるひうとまち

帝王の前くのうかたに暴虎馮

云俗元

秘 とまのおりまの源やくくは寄と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りてゐすとあるはかねをうて
わまをうつくしくあるとあり
うひうちうちいるをすんをうる
すをしそれとりしのうをけ
ま

私秘ノ義ハ
うをあるをしうをうる
おでまりをき
年
くをうをうをあるすをうをう

ときをあり
朱雀院もといふひるをすとあり
をくしくをうをあるをすも
ましをを

義業をすの
みを義業をのをいをかもも
いをうをかしをうをしをれいく
ををといをうををををををも
をしみを義をのをの義をと
早下をしてをのををうを尾をう

まんとうの
とうりうと尾ようの
きたら給心も間もなくれと
いまわること事ともくさ
もうくとくもおうけまうさる
せかりしてもとてもあて
もなるしてくに給て尾りな
らんたかくしの給すると後の
心のうおなりの初より尾てうさ

迷ともおうすまうきらふて
業薩埵のれんとしらせる
と心うくしの
美明し
給のうとも
再
さまいわ良うとせひらそ給ね
せ分とうくしてあうもくう
もうとひるうと
うくれ車よりるも

[illegible]
[illegible]
[illegible]

秘 服部乃胴衣い治郎係ゆえ
いかなることの人わと又男ていこ
をものはなることとちひろえいこと
りてう
どこぶりをこそ治しと
秘 まるる
弁 胴衣は新しのの色さうわう
しとかこうこりてのこし治
うう

うう海のこうさてちゆん
花 一条家よりうりのを浦治のろう
加ってはは海はたとこるしむのと
うにつこそうう治のみをいろ
河海の治
秘 河海うり見てあり
弁 そこいい一条家乃うちこうひこる
をこうこもやうううて見ても
けうぬるとうち毎家と一乃乃家と

那人よりもの心もうう侍る
と乞ものしいるる

浦鳩い[四]なのかたをえうること
まいらせさかりてうりあれども心る
るつねゆへよわしきこと

浦鳩子

丹後国風土記曰[巻] 浦鳩子傳記曰

浦鳩子独乗釣魚舟常於江浦曳
得霊亀化作神女是蓬山仙侶也

在昔為夫婦而今汝為地仙予為
天仙感宿昔之縁今随俗境宜向蓬
莱將[トムラ]遂曩時之志而須臾之間
向蓬莱山雖成仙宮遊宴有還郷
之思茲匿玉匣裹以錦繡緘以万
端之金玉而誡鳩子曰若欲見再逢
之期莫開玉匣緘鳩子帰国之時
来田変改里人称曰古老相傳先世
有水江浦鳩子[トムラ]者去後今経[ヘ]三百

歳矣於此時忽思（昆人）神女撫玉匣不
堪憶慕同此匣干時雲氣出歌匣
飛去去斯拭涙歌曰
とこよ人は雲ゐにしらるるものなれの
浦嶋のこうらとりしらるる
神女花芳音歌曰
やまとつくにはつきわたるれ
うきものとなりとも
一云水江浦嶋子
仙人し此傳記は延喜九年作之
七言二十日韻以三百八十字成篇名
浦嶋子傳記
又丹後風土記曰旱部首先祖名三
筒川嶋子為人姿容秀美水江浦
嶋子者也長谷朝倉宮天皇御世
采釣舟
筌曰女二文乃出息一所ゆるれ
小野より一条之（ゑり）行てしえ

しゐ西うりして柏木もるく御
あしもきしまるぬい庸侍るの乃四宣
よ侍るしよ同すきし 那乃の玉手
第宰持の九合し
未の初よりあるぬさ海しとゝ子は絵
撥し
元長乃月とのすき侍りけるはてま
さくりよるに入て侍りけるとこに
うありうゝ下あひして侍ひて
ゝ子西うりして柏木もるく御
あしもきしまるぬい庸侍るの乃四宣
よ侍るしよ同すきし 那乃の玉手
第宰持の九合し
未の初よりあるぬさ海しとゝ子は絵
撥し
元長乃月とのすき侍りけるはてま
さくりよるに入て侍りけるとこに
うありうゝ下あひして侍ひて
ゝ子はるすんはよりあきりて如乃うとに
さしとそさていて侍りけるのち
てゝあるうゝの月とうりうく
されて月日之しく侍て力し
家ようりてこ乃数とゝるう
乃みそよそうゝて
四そうに何りうゝ世ゝ乃乃の
う侍ごとゝ乃ひ向りて

おもひ海つくされ

秘 一条殿ゟ有りつること

あれてとあかさんれと

浦傳ふ心と合せてち

ゆ秘 ねさ海うち

秘 はなのちらぬひのやまみうさて

くもやうりてんをみる

ぬ心とうち

秘 ●紫浦傳ふ心つくさる張路

ものそをんしれ身の乃

秘 ゆきちらし

三条ものりい

秘 雲井 屋のひ

みさしのなかしそあるをと

秘 ゆきちりハ好文ふ事と思ふ

ひのもと

拾うるまと

秘 ふと儀よりたをしてきるとし
れと年（ヽ）けるとを
秘 年ころもわりし事とし
ヽ
ヽ女乃心持るい後ね
秘 女二ヽの心ゆるひるき事とは
毎れもこころとし
ヽてもヽてもヽ乃れこあるを
秘 ヽまヽ花

ゆるけるとこ海ヽりて
秘 腹中ゐれい嫁要乃儀式御ヽ
ヽヽヽ年
見ヽ花中ゐ乃ヽ
ヽヽヽ海ヽ
ヽヽヽ海ヽ
秘 ゐ乃ヽ花の後
中ヽヽヽ
ヽ海ヽ年の加ヽ（ヽ）ヽヽ

なほ世にもあるものとあてて

秘 かりのいとしく人の分のあるあてを

よせれこそよりひてい給ふしと

わやしうもとくりうきこしまをる

夕きりの月心なうさされんとと

いそやうこいまい

月の君乃月

あう君とうく

秘 我君しく夕音とさてらう

まうこうあせる

陰ごみ

秘 まうこいみし かりの袖

心もみ夕こうの袖も一筆し此夕

音の袖しそて姫とし あう乃まい

世ふうこひわしとし

筆夕音の夕月君よ對しての

月しく月

いとおしうもけう

秘 夕時雨の心

まつとしらねはかはる色かな

世をうしと思ふ人の心にはなほ恨はかけとなりけるかな

秘 世の雨乃張

人をうき世に随行いつ恋しなれ

うくけふ〳〵うきに世にしたがひ年せ行ぬる

かはいいまつとしらねるるれいの月

迷うまよひ〳〵まつとし

花 花いかの雨の雨の雨の人のうつも

とをうつせとの行ふ

弁 夕雨張

思ひケ絵ノカ

道長人ノ宮ハ心ニ有ケレトモ不レ

ノ御ハ行カセ

ニ世ノ人ノ

撥判サセバイカ方

（カノ人ハ方ノ中

（キソト薄カ

感テイ（ル）

ね月いの女子のうねふるまひとけ

みのとをうつ人にもわるとく夕雨の

ものいとも撥判いられるもの

をうつうつとしみをまつとね

（夕雨乃雨ふりてうしまるね

ものうつ人にとくく夕雨乃さはしみ女雨

ても

私業のうつ人ぬい　外雨の張

て雨乃上弁

わりこめ母おもひしひとのしをて
毎月一てう数うた
それもいつまてかうた
秘 哀乃はんし
うたうたうり月うたれうたけう
秘 うたうたくりとし
山寺の心うた
の ひくらの山寺乃尾ぬさうちの
うくしし東とひとうう稼人金
ひるのいうてうたいわうて山寺乃
けうたうけてはうるうて
秘 東る雄雄一百七稼うる者也 独言
のまとうう年
うてうたうたうた人
うたうたれう
の 西つまうるゆうしる

私直面のなるへし
きゝいさゝうのなりとゝみて
私知るへきことゝ
私思ひまゝあけのゆへとゝ義する
〇
クハ男
うゝ見るとゝ山のわゝ
みさゝ海さる関乃岩乃
私
関乃岩といさゝ
みゝ元のゆへとゝ

四の関の岩とゝ
わゝの岩戸
日本し武尊
久慈の岩戸の
関トヨメリ人倉
此所ハ岩戸乃北関わくトヨ一説のゆへ

まゝさゝまゝ海のとゝあるよつ里みゝ
しゝと岩のゆへりこあり鏡り
みて言てさゝ海さる岩とゝ
天の岩戸し
義関乃岩門いわりこあるよ関ゝ
のゝみゝとゝせゝ
関
小野みてい落るの海てゝあり
と岩いゆりこあ乃戸ゆ仍まゝ
きゝものさゝとゝ元関の岩ゝてい

相坂と申よりうたせる所
私しものわらうことをしらるる時
てゝさしまきらるるらう
のんうしのうへ
花散里うち
一条のうへうし
秘花散里の相
大ものうしうるる
新 殺仕たる色て　花散里
此本丁うへうれと
秘花ちる里乃さ海し
うへうも牧人の
秘夕霧初人のひうすまもる
色
おうへ山面いてとしつ
ときやと面遣さ
みうるん海のうしろ
夕霧れうとの殺し前よりう

人のすきこしかたをいつかはかなきこと
乃ゝ山わりこまてはしたる
とりの山さくらもいまを盛といふ
夕さくらもせはてゝ物さびしいふり
しかし
のさしこうん牧はたゝしと
秘
女二宮
ひしもとうれすあ思ひ何れ
白ゝきれ 同

物語せんとふるくなりにしかたのこと
ゆゑもなかりしかとなりぬる
こゝろのあるとよ

幸
同ういこゝろのとゝまるとよ女二宮乃物語
の心さし非もみてゝまとゝいはるね
とゝ尾りなり紅もこゝろ
てい所ゝやもて所乃遠ゝ
うゝ尾りとゝ
私ゝ白尾と為業ゝの同ゝすれ

[illegible]

嫌歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みくしげやま
秘人まもるなつこと
ろうつりてありうしこと
見ることはなくの
秘蓮上
このれうこはゆ心
秘花ちる里うつり
ぬりあるしうり
花数里の河

分の人うつるあり
秘ねるねはよう海ねしの
さてかしこさ事いの流の
花これも花ちる里のあつたりたもうよ
秘
いさうはさ
秘少事の事とのこのひてはのわ
れうくとさこのこと
さこうの分人の分れうくねこに

賢(い)しも身のとりあはせをかうさうんつるものなどと
少(花)さくらの更衣し
少(秘)将の初めの巻にも世々の
散(舞)所なし
なほまさりのものなれい
源(秘)のおもへし
みちをいさこそ先うれと
為業事　源の心

紅ひまさりのもの
少(舞)将の言葉
初ありひさしぬわうの乃うわさ
おもうせも
いまこと年うくの別のうのうね
紅みおいせひこと感と
わう御るうを
仕一段少将乃事と源のおうす
心うち

日ごとに春ぞ
秘 三条実美
ちとせをかけてつるそ
秘 雲井雁
私いとことてとはいとてとはいとこと
ちとせをかけてつるとはいとん
ちとせをかけてつるそ
秘 雲井雁
ふるの路へいるとそんとてとかと
ちとせをかけてつるそ

御ひとりかたりかけ
秘 夕霧
かたてしいさ海ひ
秘 雲井雁
く心あさるけ
秘 夕霧の
私何ゆえわ
しかれてと

こゝろあてにて

これより夕雲の句

うゝしきけと　むしのこゑ

舞　うゝしき

秘　秋

秋　秋

なをとゝまらん

秘　雲の唐　五言

とゝまらに忘れぬ秋

秘　真にて　舞

こゝろあてにうひて

夕きりし

ちらくてゝりこ秋つるあ

夕雲の句

さてもちきりふるうる世と

秘　雲井唐の夕雲ふるそうに死秋の

よの秋へいちきりふるさめそら

ゆゝしみて　舞

井

母ちにちち秋ゝ屋さまみぢ乃い

うきい

日本紀に泉門（ヨミト）とらてうちとそ

ゑ吉通するん　或又　黄泉（ヨモツクニ）

又泉津（ヨミツ）平坂（ヒラサカ）又泉寺道者

さてそいちさり

後世中てゝ乃歎すると

仏ちたてうう冠しうきき

雲井屑の心さ思し

雲ゐ屑い心ゆさきんと

みとさりとくい見給ふう

九（花）雲乃心さり

雲ゐ屑と九雲のこらくうきもる

とみとさりまとは雲井屑の

ちたし心ちたきんなれとなと

もし　九雲乃仏ていあう

次

なぐ見給

やうきうとさ仏なり

和乃事

れをいとうる心をそて

秘 女二文字

言ふもはるかなること

秘 夕きりより女二文字へ作ることせ

られしとそ尺てこそ尺

時ふるの高もまさりけり

花 雲井 唐のしるし

秘 雲井 丁乃事 夕雲此海

中すの事

尋 夕雲ひよりてもまさる

しるし 但雲井 唐乃事にて

て紙こゝ丁用

昔より此ある心さしの

秘 夕雲乃紙

すゑけしきそ尺

秘わるくこゝろをもちきはめて
みも雲ゐ屋一人よ心をとゝめて
しる
女房ものいひをわしとる
并少雲乃雲并一屋よりてこゝ
ひとつのむこをもとるとの仏わり
しをなしたまふ宗貞仏
ありとおもひてゝとゝ事し
女てを雨まり嫁せすといふ

はつ雪のこゝくいわしとゝ
おわりをつまりこゝきて
秘れるこゝのわるし
女よむこ乃事を
雲ゐ屋乃仏
みもひこるれそこゝもわきまて
少雪のわつ海
雲ゐ屋
はつこゝ月とこゝむこ乃事 松嶋乃
わすの表りゐ

行松浦やとしてかうさねあるまじ
あるまの神たちのあらはれ給ふ事
徒物不可説
年夕雲の事
とうとうしてしほ人の衣も
なをるとなる別るるまもなく
人とうとうしかまりいたりするんわ
まりみるるあい重井屋
自分のるるとうるる心人

秘文字二義有りるるあるれ
ちうしのつるとうとうしんまりい
とも夕雲とうとうしかいたりるるの
義い自分の事しるるとうとはり
ゆる我分とといてうるるてあるん
まりいさるとるるてあるとる
二義共に用るる
義後とり夕雲とうとうしんまりそ
中しくこと重井屋のさまとる

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花
夕きりの絶えうし夜乃ゆめ
ゆうまて分ましつる事と
いつりされいそて今さぬさうふ
つまれとといそうて行ふ
ゆめ

私は義下白の心迷へうし
うちいそてみとしや
秘
いそまてよう行てようすと
也幸

は一白いまるの花しまへいそてさいふ
心うりまてあしくもれ吟ふ
ゆめ

かしこまれ花さうこまると
秘
一条ふん
花
女二ふいいもうさぬりこあるよりこと
りて出行つねと
私花ふまれ初と いをみとく
しやうこまとうけりと見と

なとゝ〳〵きを枕ことゝ
のゝ人ゝ〳〵ゝ
ゝいのれのゝ
とゝ

常乃ゝ

私常のれのゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

ゝ

ゝ

是一ツ

秘 ゑとて有り夕雪の事とゆけ方行て俳ようゝゆり結ゝ拾うり

ゝ也 卑

毎ツ進ようゝ

業 夕雪の初 一且 端 二端ゝそ行れ

有ゝり乃事とし

いさゝゝ心ち

業 是以下ゝ有ゝと云ゝて方の

ゝ

此初し

此御ふゝ乃うと

業 此屋と有一用忘ゝて

ゝ忘ゝ人ゝ

私世乃ようゝ人乃ゝ乃事に

ゝ乃ゝ乃ゝとゝ夕雪のゆけ方行し

卑 此事ゝ忘ゝ人ゝ成ゝ成ゝ女方

乃ゝゝゝかゝ乃ゝ乃ゝ夕雪へ

ゝ 私卑ゝ乃業極ゝ

つきはるさとしは行とさとうの
義 ゆきとり　しのぶ
ちよのいとさはゆる
義 ゆきはし　ゆくいとトミヨリ
ゆきの乃はとさいはしみとさはとさ
ゆきい世乃善通の人乃心ろさ
名別し実法そとさ
あはさ乃年月とさる
義 上乃文の此はしよ此ろく乃経とさ

しとうけてさ
はしるさとさ
義 文の此はしろれとい妻の中はし
ゆきの月捨ろさはとおりとすり
しのさとさ
義 御中此捨の乃御方より来ての
おとさいさとさねとさ
とさろ此ろうさ此ろうさ人ありと
義 は一条文より八長行ろく乃事とは

御もてなしの行ひ方乃仏
と恨のよしこと乃御名を
そのやうなる所しられのこと
清テよもしへ　経乃ありさを云
なりり
秘
きいりてゆ野より出しなる
ましし
私義の義紙下
さりとてくゝ乃きやい一百

義
さりとてかくのごとくてこれ
つきんとや

乃こゝもらさん
義
是い乃乃御仏乃陽にて行て西
用なるあゆみのすし
ことわりや
義
ト云の人乃いかゝ所んも保保なる
乃理とや　上乃和こ人乃中に
そんともト云の乃の人乃乃無て

二まゝ見まゝ八十命ヲツクリ行
ツリ付タ音の初ハ京乃吉実よ
いとをして行さ長い面目をとし
なる命字迷心ヲ地 仏次ノ初よ
さて乃人名もトアリ 大和国カ思面
モ名トし

さて乃人名を
秘
さてうしんをもし事
うちくのいつの仏の法ヲ面ヲリ

うもしても
秘
心とやうの事ハ中ヲ地事
義 腹乃行ての法ひしうの暫くハ
孔雀ていう事ヲ中ていうもいつの
てくみうけ愛ヲ事ハ
うれとも一向松命のやうの法人
しうてうう事ヲ強ヲ
ヲ別ヲうてしうつうねとハ二界を
ハ行ヲ仏法ヲ面ヲ

私はよろぬ海とかり音ひて
ものうつる神のうてあるか
とも四心かすけ法つすとも
なりてむさるくすあ海みしと
そとりんん
ひうてそひうきあえまらそ
夕音のそひうをしうみすてて
ものうとくこのうそしい絵色う
ものし

義
そうは我面目を失ひうとく
一向ものを法不通ものうとい家の法
為うい教法名れの言くうん
ひとくよあとあるりてあるるしけ
ものうそいとあるれ
義
偏とは不字腹し 長恩よりて
一偏ものうい絵人うそうもしるさ
人のものしそもの身の無も法
今乃ものうわるくそもし

こころくとせのまくて
かゝる事

けせともこゝひたくてまつる
かゝる心ゆゝ夕音の色をけさ
こゝふしくてまつふかい女房の事
これゆゝまさに
ゆゝ夕音ゆゝとよゝくを皆そゝ
てくさ心ゆゝくしとし
いとゝいんゝくゝ

夕音初花

竹のゝけさ御名に
しゝ色の色ゝ我名乃色ゝて
ゝてゝ

心さゝくゝゝゝゝゝ
もゝ名をゝゝゝゝ
ゝ

心ゝとゝゝ劉ゝ
世中乃ゝゝゝゝゝ

ふうきなるこそわすれぬ
分とはそもふるさと例みる人なれて
夜の心はもろ海のうしほ
いとうるおいていうれたる
夕雲乃心
いとうきはうれひなるこころ
人(ひと)非木石皆有情　白氏文集
今業百業中　十二磐城寺ていて
きとはうり弟は俗人

不動乃心うり
荒(あら)
いとうきい木石のあるく物ようきはう
海の磐城い海鹿ようきはう
ちうりとうてみるうとうてみ
ちうると
義(ぎ)
荒い石寺の人乃事し真実ら嬢の
熟せぬ人いまと怪て肌部すが
あめしおうきはしりは会も
まつの乳りやとり雪のそひと

し給し

之衆の罪は

重ねて

つゝまれぬるもあらん

ケ様の心中せし

こゝろ乃ことなるべし

柏木し

はゝきゝらせもせと

為業は此ゝ十分なるすと柏木の

とひし事とゝ

よとひおもふ

ゝゝ此ゝ

万とゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まるより

秘

をのとて所をうしまのうへて

この人ひとりのみ

大和ゐる

りとつゝめさりけるけの

はやと所の海岸時雨

もゝ人雪ふり　おそれてまいまし

成

くせめてまこうれふたち

義

為業の九のとけねるを聖よ所ろ

さうかとゝ人雪のまし　結句

心とけ結ねゆくようまし

之条家

雲井　鳥ちち

世成ゝゝゝゝ

寄

実人の心うかゝ之うる事ゝ

とゝのひ　とゝ月九月て

のゝ人ゐゝ

大奥へ御こたつとて
雲(院)ゐ殿の又乃大奥へ
御ゝ弘徽殿の御のもと
女御のゝ御ことにあらせ給
殿仕たまはれ女こう
まひ乃やうなる
女御のゝ御ことに対面ありて雲井
殿のゐのもとつゝしてとゝ
ゐたまへ

仕まつる
殿仕たまはし
いとひさしくなりぬ
急(いそ)ぎ心ゝゝまゐる用情に
ひさしくなりぬ
之乗殿よりとゝ
夕雲乃のゝ
君(秘)ゝゝまゐ
夕雲乃ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

いせのくに

秘 夕雲乃句

ふるさとのうねの心のもちとも

秘 はるの夜前生涯の句

[illegible]

義 と義為業のしるす

句事も今はてはあるのもひるもち

秘 [illegible]唐の句

[illegible]

義 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

秘 夕雲の句

[illegible]

句 [illegible]

[illegible]

男
秘 開引帝
秘 引ものとりあつかうこと
こうこうみいうもの
秘 女二条
いうるくうゆうする事
秘 心ばえくるうもの　少音いうれ
ばいさるものれい
あるものひとてて
長夏ひさることめ給ること

秘 あさるくこと
ひさてることと
最くうとうくう音のうこれのことと
行とうとうもせんとこ
とうくくきれたこて
秘 一条ものひさくくて行給てて
也 男
まくくさいくう音乃することん

夕雲いとゝおそくしてのぼる
ひめ君といさゝか
夕雲の三条へつれてゆくとも
そゝ君はいとゝおそくなるの
夕雲の姫君はとゝ殿の御ゆるし
殿のたゝり祈のゆるしの
ひとうるゝとゝ物のゆるし
うるゝ
おとゝのゆるしと

和歌
返仕たる
いとゝいさゝか色ふかくて

義
中殿へ返仕の歌例也 御命ゆる
せ迷ゆゝ
なのつゝもゆゝ和せゝる舞ゆの
と

義
ゆゝきりい所とゝ分別乃ゆる
ゝゝ
うゝゆゝゆゝゆゝ

集 既よりわかをとこそうあめるをか
のしそのすちめととをされと
やしこう殺仕大臣の姫
よりあるをり
秘 為業なし
義人のはかるを
殺仕大臣の六男 系図、義人
かねとあり
殺仕大臣
ちこうりあまやかるとあるこうめとをこく
わうれとありしこうめとをこく
集 殺仕より為業なしとりめる
なをそ我よ奥ふこさうをあい相
木のまよりあうれとありひをい雲
ね屋のこうこうめと安し
秘 わうれとありしい相手しこうめと
中ハウメ者よりひこのうしるのうう
こうこうよ奥わうりといをうれ殺
まこうこのとこ 義高年四こ

形元おりてうこと
ゆかりてうこと
みれば中
中とし

柏木ゆうの中とうこの
紅葉のさかりなれとこいそ春の
雲つかうり
きていにへのふ
四月のさくらし
まうの通みるは

少将の君
れいこと
為業うり
ちんうこと
ちんうこと
こと〳〵おこせまうこは
文乃れんうり
夜殿の業文
ゆうよに教ぬ方ひとれ
しるとひつ

業 分乃教の行業としとし
秘 ともへよりうへくさ在所之ことし
分ひとりとさ海へ乃行いて
しるしるのことし
少ねいへくこと
義へ少ねし
いとうわ
秘 少事乃ましまとうとうせ
義へ少ねり事とかとこへ少ねの
わひしこうり
内外なる
見もこる所わうてこ
いとくしく心ようねはきあく
れまとひ
業 少事の事くこの内乃とけあこと
然とこ
私いとくしく教仕りのみ
ようこ義こ業こいよくとけこ

うるはしきたりなり

大夏乃君い

秘 雲の居し

おりしりけく事をけ

義業のおんとけ

わくうれまひて雲の居へ

うるし

四位のすけ

芸 芸光うの女りり言のうひへし女巻より

尺てあり

秘 放典侍し 女巻よりてうち

れとうとうる

秘 雲の居いは四位のすけと称

しりのりとうり今は宮乃れり

そうて雲の居とうへる

放典侍 すうるいみ言 世のうると

へのうとあり

秘 歌 秋の女 秋のうす

歌みれるうへ人をあり

秘事

なにはけやとい　何をナヤケシ

秘事

をうつりとし

秘事

をしまるしまるとうの義もありつみろ

らうしを心し

人の世をうるとあわれとうしてもを

分をうとうとい有はうらしを

秘事

我身いのうへ人まて分りうへてい

ひつねとし

秘事

をしの屋の屋敷等しのうへ人のうへ乃うまれ

義とうれとも分をうとうとい有て

ねと世間の事い分をうへて人の

身あるとあるの事とあり

みたうとの人の世乃事ハ今ハ分

をわうとうるとうとうとうへ

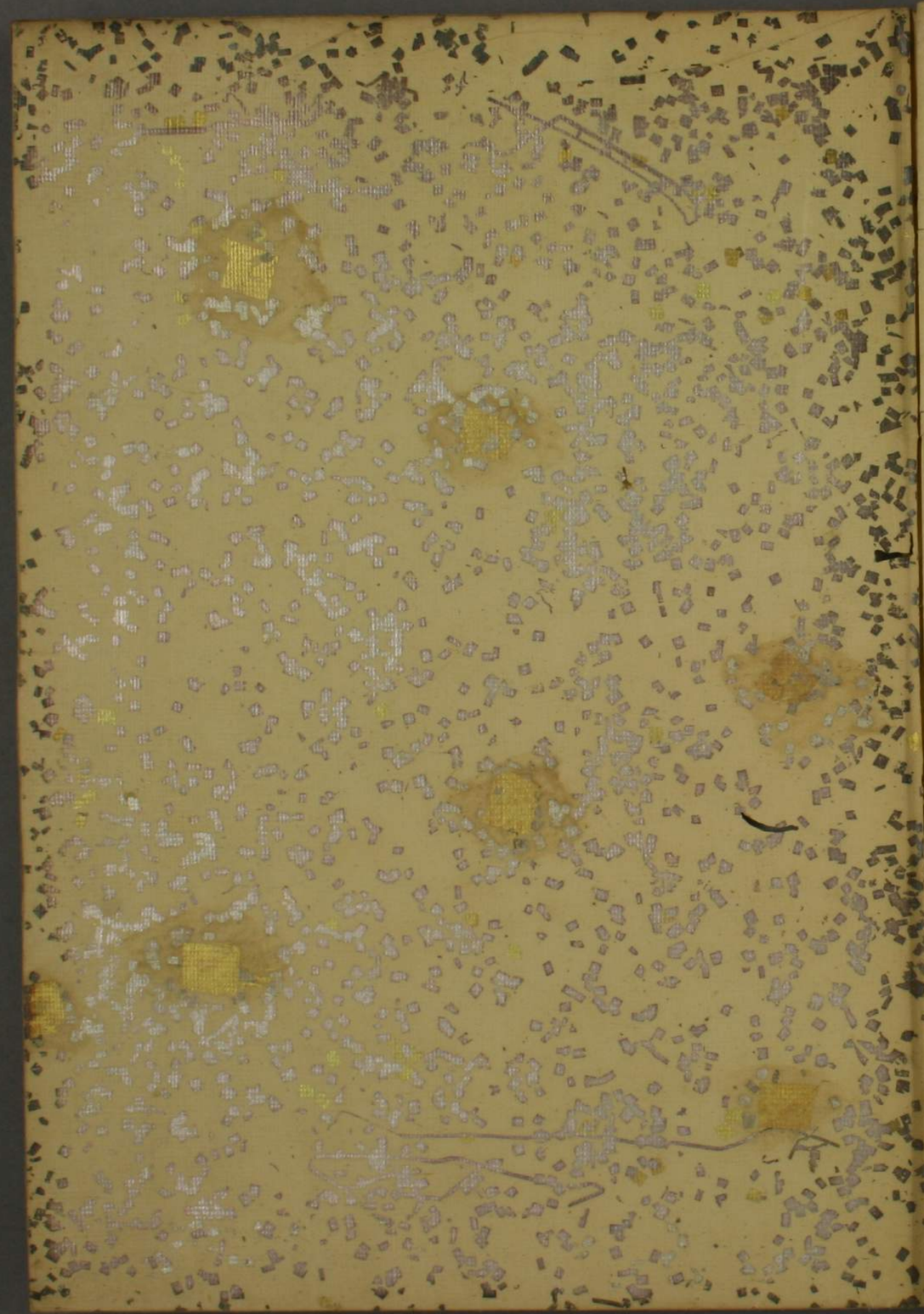
義

ハ世乃人乃うへうとうるとと義

とい心いうしてもの所り

入てまくらいとやすらしと
人のあるもあるすすゆうれとよ
ゆるい寄物よりくもい入られる
ものと感じるたり
わるれなるは
花ちらしのすけいあるれとうし
むしらしの山中あえ
雲の屑とうして殺仕乃山す
とうれ甚うえものもし

こゝてあるあるて
義 夜裏ものう雲の屑とゆう
はてのはとも
こゝのうるよい
雲の屑うせ
この君二郎君いもんうのあるう
我
秘 花ちる里のゆうし
院もうれ
井し 侍し

付句中らひの事いひ侍るべきこと
第弐巻に申す
義業多い今はていかとなけ紙
ねが来いうりしもそこと
又雲井雁もいまこと段仕上
乃すりおこ仕るふ
めてとおりあるくしけふ
第式部う用捨乃筆法ち
辛好うこと

例乃作者の法